昭和55年5月15日発行（毎月1回15日発行 通巻127号）

バドミントン 5

The Badminton World No.127 1980



carlton
That's the name of the game

リム・スィー・キング 世界を制す.!

Liem Swie King（インドネシア）

- 男子シングルス世界ランキング１位
- '78全英選手権男子シングルス優勝
- '79全英選手権男子シングルス優勝
- '79ワールドカップ男子シングルス優勝
- '79アジア大会男子シングルス優勝
- '79トマス・カップにダブルス，シングルスに出場
  インドネシア優勝の原動力となる。



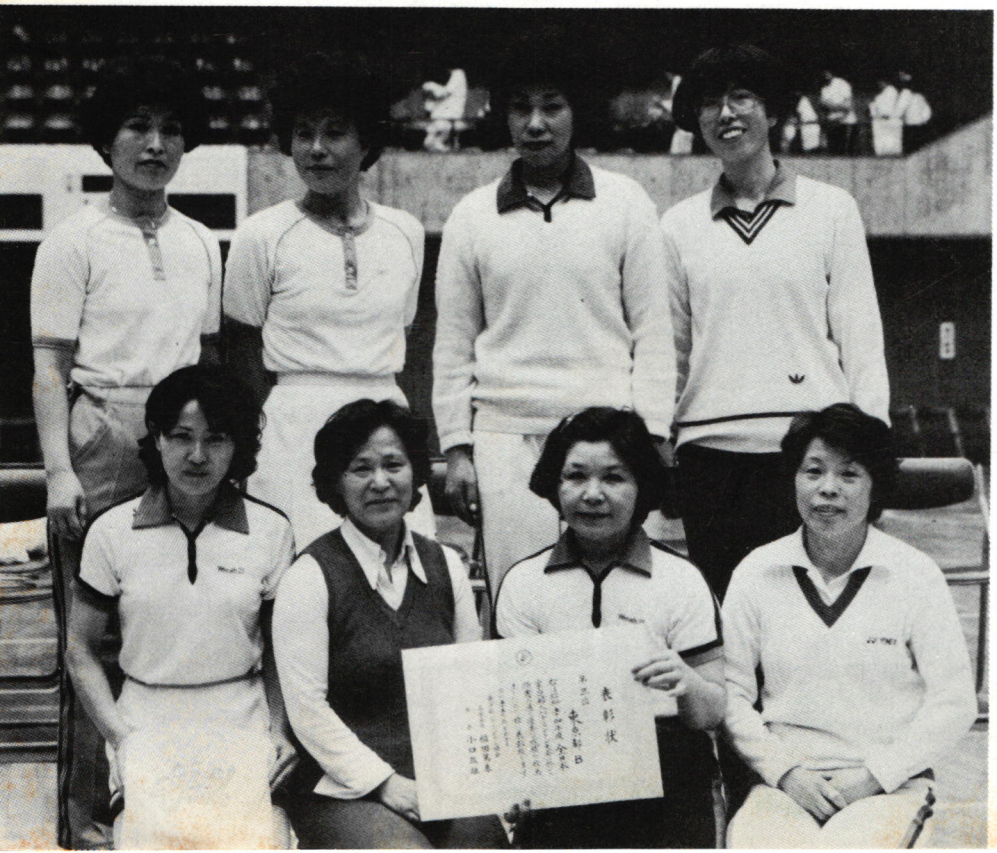
使用ラケット　カールトン3.7（写真左）　トーナメント（写真右）
重量115ｇグリップ３½インチ　'79全国中学生大会使用球

東京A・女の意地!?



初優勝はこたえられません(東京Aチーム)

粘りに粘って3位に入賞(東京Bチーム)



第2回全国家庭婦人20チームが参加

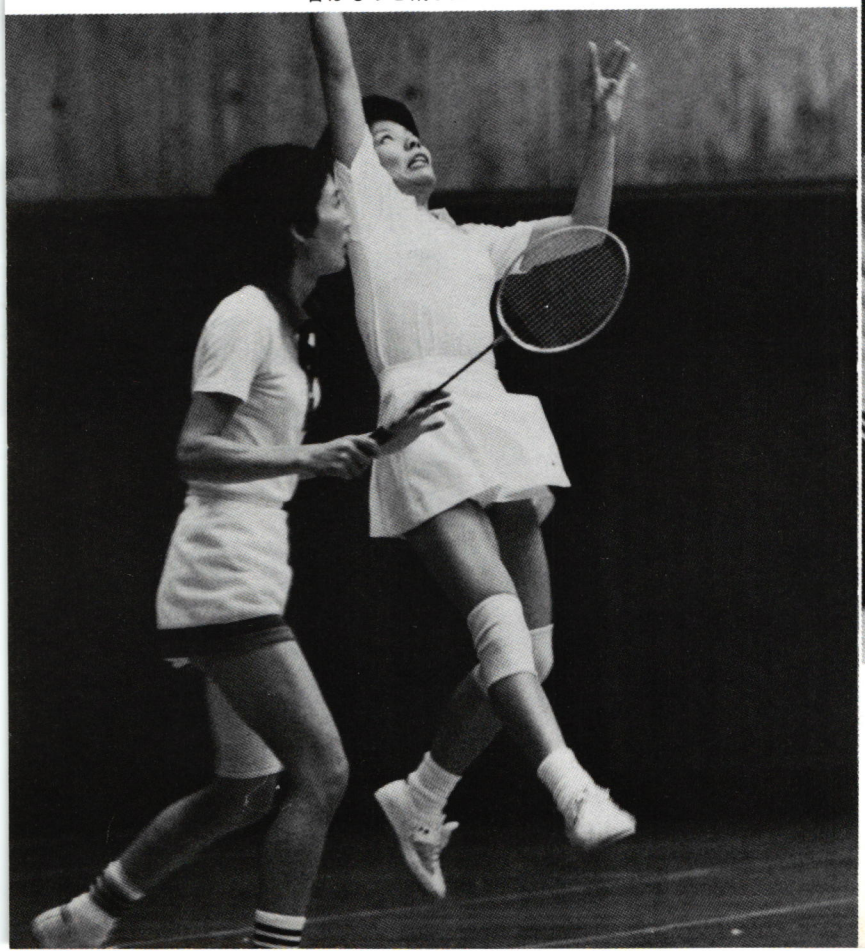


栄養つけなくっちゃ



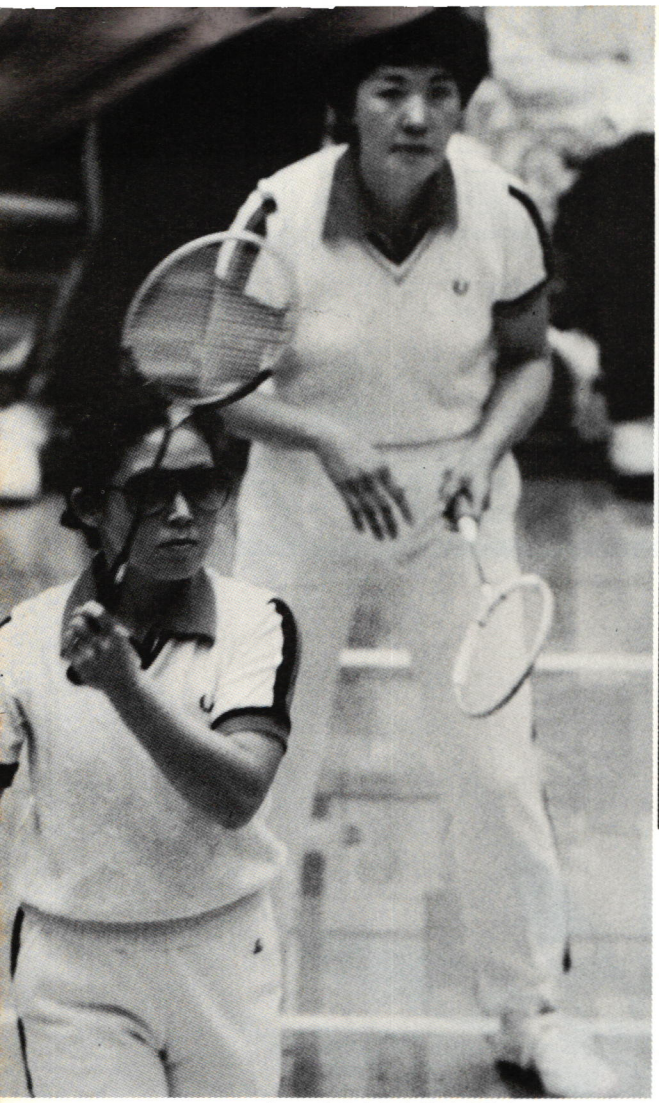
“頼むわよー”“ハーイ”

昔はもっと飛び上れたのに

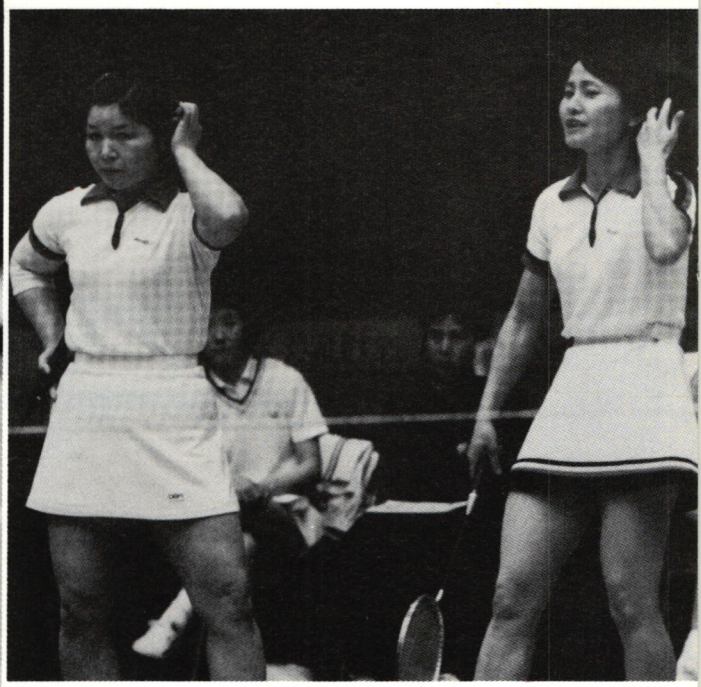




こっちの方が楽しいわね



このサービス、受けるなら受けてみよ

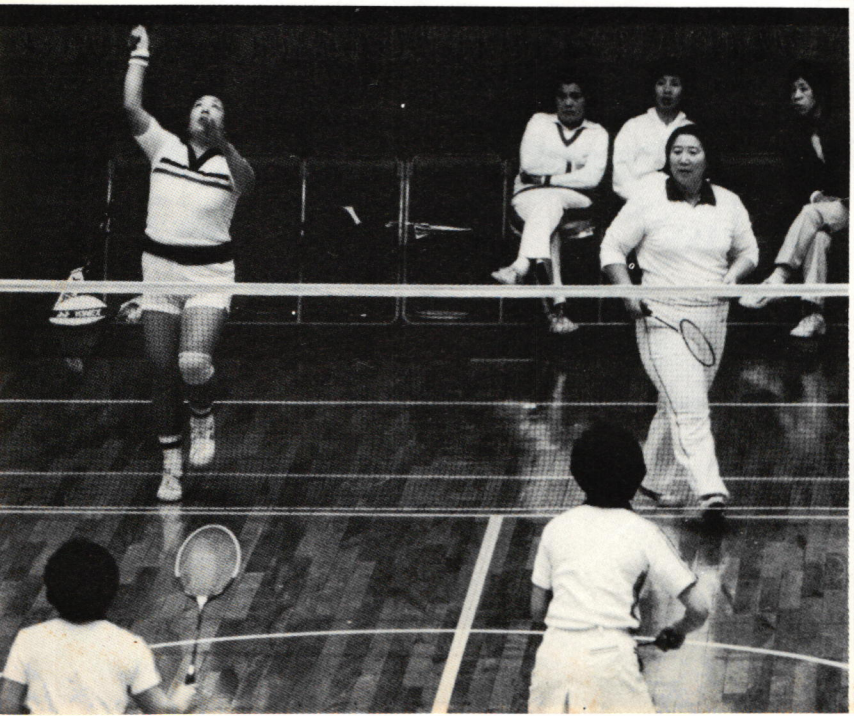


やっぱり髪形も気になります

“ママ、ガンバッテー”

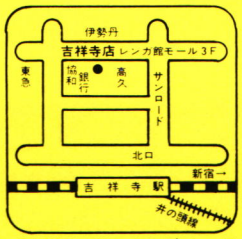


何故か床がしなって見えます

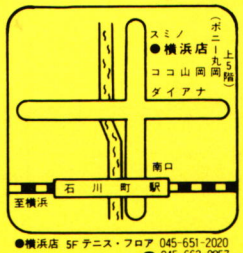




●藤沢店 テニス・バドミントン
☎0466-26-2552



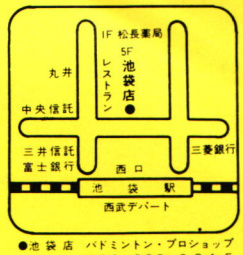
●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●横浜店 5F テニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4F バドミントン・フロア
☎ 045-662-7133



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215

ラケットショップ元町

アドバイスはまかせとけ!!



バドミントン 5

❶ グラフ 第２回家庭婦人東京大会	㉜ 若手中国速攻の冴え 第６回日中友好大会
❻ 東京Ａが初栄冠 第２回家庭婦人東京大会	㊳ 日本一の〝若さ〟が売り物 渋谷アンクル――われらのクラブ
❽ PP　LSKの進撃をストップ	㊵ バドミントンの白石島 北から南から
⓰ ママさんチーム紹介	㊷ 海外トピックス
⓴ 認識不足の〝羽根つき〟 読者と編集者	㊻ グラフ 第６回日中友好大会
㉖ グラフ 日中友好食べ比べ飲み比べ	
㉙ TOKYO　LETTER	
㉚ バドミントンの用語ＡＢＣ Ｆの項	

◇今月の表紙＝４年ぶりに復活した日中バドミントン競技第１戦・名古屋大会の開会式　撮影＝赤星三樹

第2回家庭婦人バドミントン競技東京大会

東京Aが初栄冠

北は宮城から南は三重 全国から20チームが参加

第2回全日本家庭婦人バドミントン競技大会が、3月29日、30日の両日にわたって東京都板橋区立体育館で開催されました。

北は宮城から、南は三重までの20チーム、約百五十名の〝ママさん〟が参加、会場には手弁当の花が咲き、チビッ子たちの声がとび交うなど、家庭婦人ならではの暖かい雰囲気に包まれていました。

試合は、東京、千葉、神奈川の関東勢が強く、経験者の豊富なこともあってレベルの高さを示してくれました。

結果は次の通りです。

○予選リーグ

▼Aブロック
〈1位〉千葉、〈2位〉群馬（前橋）、〈3位〉埼玉（草加）、〈4位〉三重

▼Bブロック
〈1位〉東京A、〈2位〉新潟C、〈3位〉埼玉（浦和A）、〈4位〉新潟B

▼Cブロック
〈1位〉神奈川A、〈2位〉東京C、〈3位〉埼玉（浦和B）、〈4位〉新潟B

▼Dブロック
〈1位〉東京B、〈2位〉新潟A、〈3位〉埼玉（大宮）、〈4位〉茨城（水戸）

▼Eブロック
〈1位〉埼玉（上尾）、〈2位〉神奈川B、〈3位〉東京D、〈4位〉宮城

○決勝トーナメント

▼1回戦

神奈川B	2—0	東京C
埼玉上尾	2—0	新潟A

▼2回戦

千葉	2—0	神奈川B
東京B	2—0	新潟C
神奈川A	2—0	群馬前橋
東京A	2—0	埼玉上尾

▼準決勝

千葉	2—0	東京B
東京A	2—1	神奈川A

▼三位決定戦

東京B	2—0	神奈川A

▼決勝

東京A	2—0	千葉

（東京Aは初優勝）



胸をはって表彰式

千葉、連覇ならず

昨年の優勝チーム千葉は、「優勝は鬼も角、決勝までは何とか進出したい」の念願どおり、決勝までの5試合をストレート勝ちして、実力のあるところを見せた。

しかし連覇はなかなか至難の業だ。

初優勝を狙う東京Aの第1ダブルス西野・渡辺組に対した渡辺・朝井組は、勝負を余まりに意識し過ぎたのか、リズムに乗り切れないまま実力を発揮できずあっさり第1ゲームを許した。

ようやく第2ゲーム中盤からエンジンがかかり始めたが、時

すでに遅く、西野・渡辺組は完全にペースを不動のものにしていた。

実力伯仲同士の対戦ともなれば、僅かな心理的な作用が大きく影響することは確か、この対戦が両チームの明暗を分ける結果となった。

勿論、優勝の東京Aチームの原動力となったのはこの西野・渡辺組。

ラケットワーク、配球のうまさに加え、終始余裕を持った試合運びを見せ、決勝は「やり難かった」ことを強調していたが、本大会随一のコンビぶりだった。



根岸知子さん



遠路はるばる宮城から

好評だったリーグ戦方式

東京都……根岸知子

3月29日、30日、板橋区立体育館にて第2回全日本家庭婦人バドミントン競技東京大会が行なわれました。

前回と異なる点は、各ブロックに別れて予選リーグを行ない、その後に決勝トーナメントという家庭婦人ならではの方式を採用したことです。

私たち家庭婦人は、かならずしもチャンピオンになることが目的でなく、大多数の人は一回でも練習がしたい、試合がしたいということだと思います。その点で、代表者会議でも本大会の方式は大好評でした。

ただ、ブロックの分け方についていくつかのチームから「私たちは経験の浅い者ばかりなので、Dチームにでも入れておいてください」と、お電話やらお手紙をいただきました。

しかし、ランク別に1部2部と分かれている訳ではないので、ご期待に応えられなかったチームもあるかと思います。

できることなら、1部2部とランク別に分け、それぞれ優勝チームを出せるようにしたいものだと話し合っています。

また、今回出場された県では、ほとんど県大会が開かれている模様です。

千葉県　年2回（クラブ対抗）
神奈川県　年2回（Aブロックに分けて個人戦と団体戦）
群馬県　年1回（ランク別個人戦）
宮城県　年1回（団体戦、チーム編成は学区間）
埼玉県　年2回　（個人戦、団体戦）
新潟県　年1回　（市大会、個人戦）
東京都　年1回（個人戦、55年度から団体戦も）

といった状況のようですが、早く帰られた県からのご意見は聞くことができず残念でした。

本大会を終えて「本当にやったというのが実感です。

リーグ戦形式ですから、最低3回は試合ができますし、勝敗が決まってからも第3ダブルスまで試合を行なったので、勝負を度外視してどのチームの人達も、皆んな顔を紅潮させて一様に満足そうな表情でした。

準決勝、決勝へ進出するようなチームの方は、これでも家庭婦人かと目を見張るほど若々しくて、ハイレベルなバドミントンを身につけて力いっぱい戦ってくれました。

それとは対照的に、私ごとで恐縮ですが東京Dチームは、真壁（51歳）、海老（52歳）、下村（53歳）、根岸（50歳）と、6人中4人までが50歳以上というチームにもかかわらず、最後まで戦い抜きました。

本大会出場の皆さん、第3回大会でもかならずお目にかかりましょう。

山本洋彦

在ロンドン

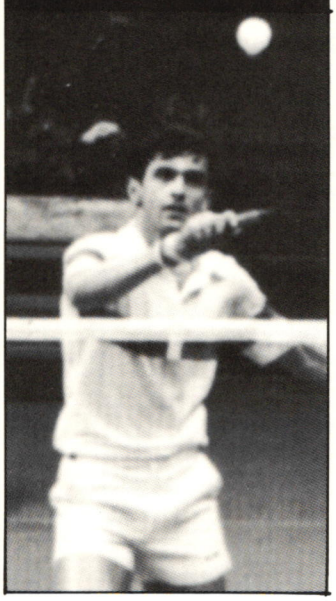
The Badminton Association of England presents The All-England Badminton Championships

第70回全英バドミントン選手権大会★ウェンブレー・アリーナ★

PP（プラカシュ）、LSK（リム・スイ・キン）の進撃をストップ

インドの星から世界のスターへ★LK（コーペン）は圧倒的勝利

オーソドックスで基本に忠実なプレーが、インドの星・プラカシュを世界のスターへと導いた――



▼賞金もかかった70回目

一九八〇年オールイングランド選手権大会は、伝統のロンドン郊外ウェンブレー・アリーナで、前回より大会期間が1日延長されて、3月19日から23日までの5日間開催された。

オープン化の波に乗り、男子シングルスのチャンピオンには一、〇〇〇ポンド（約55万円）、女子シングルスには七五〇ポンド（約42万円）等の総額一万五〇〇ポンドの賞金がかけられ、その熱戦の火ぶたが切って落された。

今大会の焦点はインドネシアのリム・スイ・キンが、同じくインドネシアのルディ・ハルトノの作った7連勝8回のチャンピオンという記録に挑戦するため、いかに3連勝を飾るか、女子シングルスでデンマーク、リーン・コーペンの2連勝なるか、そしてインドネシアの強豪ヘア、チュンチュン・ワジュディ組が4連勝6度目の男子ダブルスの栄冠を手にするかどうかなどであった。

○順調に勝ち進むLSK

リム・スイ・キンを第1シードとして、スウェーデンのトーマス・キールストロム、デンマークのフレミング・デルフス、モルテン・フロスト・ハンセン、インドネシアのリュース・ポンゴ、ダニー・サルティカ、そしてインドのパデュコーン・プラカシュの各選手がシードされ、合計64名がシングルス・チャンピオンの座を競った。

リム・スイ・キンが決勝に残ることは、容易に予想されたが、決勝に到達するまでに、キールストロム、そしてデルフスを倒さねばならなかった。

リム・スイ・キンは安定したプレーで、1回戦イエーツ（イングランド）を15―7、15―12、2回戦同じくイングランドのハントを15―2、15―2の大差、そして3回戦はホー・キム・スイ（マレーシア）を接戦の末降して勝ち進んできたデンマークのヘルショルトを15―9、15―4、準々決勝ではキールストロムを15―9、15―7と予想以上の楽勝で打ち破り、準決勝にコマを進めた。

3回戦でマレーシアのミスブン・シデクとファイナル・ゲームを演じたものの、準々決勝ではポンゴを15―8、15―4で破ったデルフスと準決勝で対戦することとなった。

○PPも快調

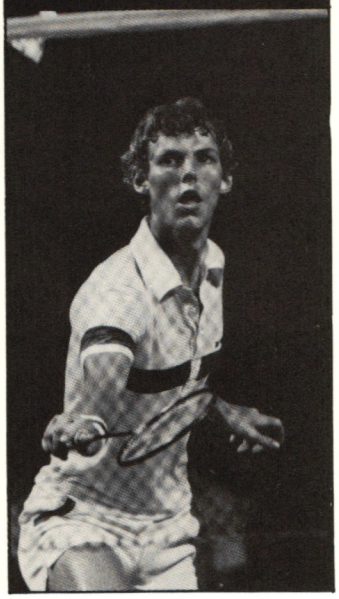
一方の山では、プラカシュとハンセンに、誰が土をつけることができるかが見ものであったが、プラカシュはまったくオーソドックスな無理をしないペースで、ハディヤント（インドネシア）、プリ（デンマーク）を破り、かたやハンセンも、2回戦でアルビ（インドネシア）と17―14、18―15という接戦をし、キモを冷したものの、その後は立ち直り、順当に勝ち進んだ。

✖ベスト8の力べ厚し

この間、わが日本選手の方に目を向けてみると、辻は1回戦でヘルショルト（デンマーク）に5―15、8―15で敗退。尾崎は1回戦カナダのド・ベレに15―10、15―5、2回戦のミスラ（インドネシア）に15―2、15―2の完勝をし、3回戦でキールストロムに挑戦したが、2ゲーム目の猛追もむなしく8―15、16―18で敗退。土田は1回戦で出足悪く、メキシコのゴンザレスと15―17、15―9、18―17という長丁場のそしてヒヤリとさせる試合をした後、ニールセン（デンマーク）を15―10、15―7で破り、3回戦でインドネシのポンゴと対戦、しかし9―15、13―15で惜敗。

日本チャンピオンの銭谷は組合せを見て「プリ戦がヤマだ」

プレーだけでなく、コートマナーでも拍手かっさいをあびたモルテン・フロスト・ハンセン



といっていたように、2回戦で老巧プリと対戦し、1時間近くにも及ぶ長い試合をした。しかし3ゲーム目の最後のツメを欠き、6―15、18―17、12―15で敗れ去り、飯野は1回戦でジリアンド（スコットランド）に15―10、9―15、17―14で勝ったものの、2回戦でハディヤント（インドネシア）の前に2―15、9―15で敗退。期待の長谷川は、1回戦でイングランドのスコットを15―9、15―10で、2回戦デンマークのラーセンを13―15、15―2、15―9で破り、3回戦にコマを進めた。しかし、ここでシード選手のダニー・サルティカと激戦を展開、13―15、15―3、15―18で惜しくも敗れ、いずれもベスト8入りはならなかった。

日本のプレーヤーを見ていて感じたことは、一つ一つのプレーについては他国のプレーヤーに決してひけをとるものではないが、しんぼう強さ、そしてしんぼうにしんぼうを重ねて得たチャンスを絶対に逃さない集中した攻撃力に、もうひとつ研究する余地があるように思えた。

✖スポーツマン＝MFH

さて、準決勝を見てみたい。

リム・スイ・キンとフレミング・デルフスの対戦は、デルフスがどこまで食い下がるかが見ものであったが、デルフスの長身からくり出す角度のある強力なスマッシュも、完璧なレシーブを誇るリム・スイ・キンにはまったく通じず、15―5、15―8のストレートでリム・スイ・キンがあっさり決勝に勝ち進んだ。

一方、もうひとつの準決勝は、昨年の第1回世界オープン・マスターズ・トーナメントの決勝と同じインドのプラカシュ対デンマークのハンセンの対戦となった。

前回はプラカシュに軍配が上がったが、最近のハンセンは進境著しく、興味深い対戦となった。

第1ゲームは、さぐり合いのような形の中からプラカシュが抜け出し15―8で先取。第2ゲームにはいると、北欧特有の白い肌のハンセンの顔が紅潮し、ゲーム展開は予断を許さぬ情勢となってきた。

けんめいにドリブン・クリアー、カット、スマッシュ等の攻撃的ストロークを多発するハンセンに対して、つい直前に行われたデンマークおよびスウェーデン・オープンでの優勝の勢いをかうかのように、プラカシュはここでもあわてず、十分余裕のあるハイ・クリアー、正確なドロップショット、ヘアピンで対抗し、15―10で第2ゲームもものにし、史上初のインド人としての決勝進出者となった。

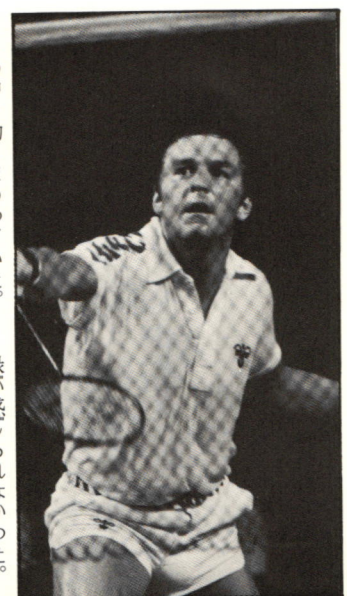
敗れたハンセンも、ベストを尽くしたかのように、主審に握手をしたあと、両手を上げて観衆の拍手にこたえ、すがすがしさを会場にふりまいた。まさに〝スポーツマン・ハンセン〟といった光景であった。

▼悠然と登場PP

いよいよリム・スイ・キンの3連勝をかけた決勝となった。

ウォーミング・アップの後、リム・スイ・キンが先にコートにはいり、プラカシュが準備を整えてはいってくるのを待つ間、リム・スイ・キンをよく知るバドミントン・ファンなら筆者ならずとも、「おや？」と思ったにちがいない。

意図的ではないにせよ、プラカシュがコートにはいってくる時間は長く感じられた。リム・スイ・キンは、「まだか」という表情でプラカシュのほうに目をやり、そして次に視線を定めず、何かイライラするようにコートの中を動きまわっていた。



ベテランのスヴェン・プリも〝筋肉男〟らしい攻撃的プレーで、堂々のベスト8入り

いつものことながら、インドネシア・チームの登場する試合には、必ず大応援団がかけつけてくる。その中の一グループがリム・スイ・キンの注意をひくかのように、大横断幕をかかげ、大声で何度か叫んだ。

しかし、リム・スイ・キンはまったくこれに気がつかない様子で、いっそうコートの中をウロウロするばかりで、まったく3度目の防衛を果たす王者の貫禄が感じられなかった。

そして双眼鏡を通して見たリム・スイ・キンの顔から、いつもの精悍さが消えているのを筆者は見た。

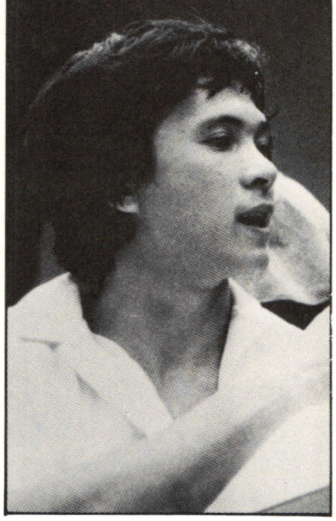
✖ヌケガラになったLSK

そして、5時2分ラブ・オール・プレー、そして5時11分ゲーム・オーバー、ゲーム・ツー・プラカシュ・バイ15―3。わずか9分で前回の覇者が1ゲーム目を失ったことに場内は一様

にどよめいた。

リム・スイ・キンがトスに勝ってからサービス権を握ったのは、わずか9回。しかも、最初のサービス権は即座に失い、その後プラカシュが得点をしたというより、リム・スイ・キンがサイドライン、エンドラインを割ったり、選球ミスをするなどして、たて続けに10—0となっ↘

まさかと思われた敗戦……信じられない不調ぶりからなにか重大なアクシデントが起きたと思われる——



↖展開から4—3までは一進一退の試合展開となり、リム・スイ・キンも1ゲーム目でおかしたつまらないクリアー・ミス、選球ミスなどがなくなり、本来のプレーに戻ったかにみえた。

しかし、この後がいけなかった。3—4でプラカシュのサービスの後、再びリム・スイ・キンらしからぬ凡ミス、凡プレーが飛び出し、6ポイントの連取を含めて11—4とプラカシュが逆転。

リム・スイ・キンはいよいよ後がなくなった。青ざめた表情のリム・スイ・キンは、ジャンプスマッシュ、速攻の攻撃でいっきょにばんかいを図ったが、プラカシュがシャトルをとらえる位置が、リム・スイ・キンより数十センチ高く、そして速く、得点は13—7でプラカシュのリード。

強引にサービス権をもぎ取ったリム・スイ・キンは、その後ネットインをネットインで返すファインプレーもとび出し、10—13まで追い上げ、プラカシュにも固さがうかがえた。

しかし、サービス権を取りもどしたプラカシュは、ここでもまた無理をしないオーソドックスなプレー展開で、一気に15—10で、インド人として初のチャンピオンの座についた。

試合終了は5時32分。男子シングルスとしては短い30分足らずの試合であった。

リム・スイ・キンの不調の原因を語ろうとする者は誰もいないが、前日の対テルフス戦の好調な動きからみて、明らかに当日何らかの重大な支障が、リム・スイ・キンにあったと思われる。彼にとっては、まことに不運といわざるをえない。

○オーソドックスに栄光を

案のじょう、第2ゲームすべり出し、今までの一方的な試合のたのだから、接戦を予想していたファンは、異常に気づいたのも無理はない。しかし反面、このままでは終わらない、ファイナル・ゲームにもつれこむだろう、と誰しもが思った。

▼今後が楽しみPP×LSK

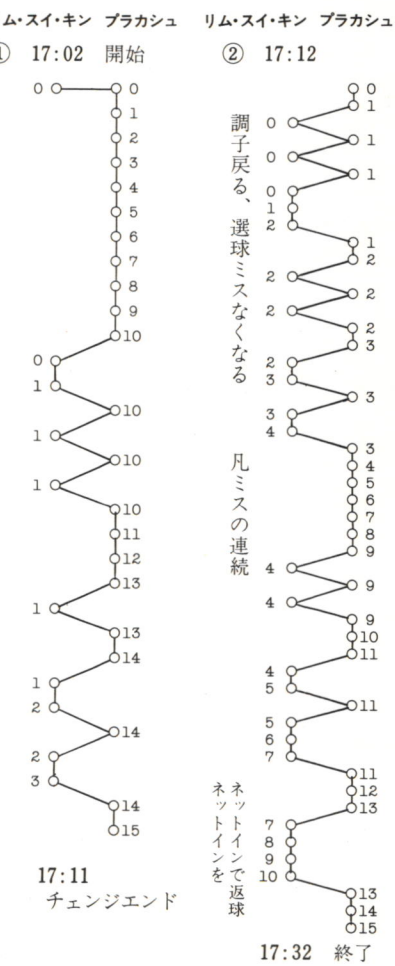
リム・スイ・キンのほうにスポットを当てすぎたが、プラカシュは、リム・スイ・キンがベストの調子であったとしても、1ゲームはまちがいなく取れるほどの絶好調であった。

それでは、彼の武器は何か、といわれると、「より高く、より前で、より速く」というバドミントンの大原則を忠実に守り通してプレーをしていることであり、サービス権を握り、自分がミスをしなければ、誰にでも勝てるというバドミントンの特色を、目のあたりに示してくれたプレーヤーである。

そういう意味では、彼の選手生命も長いと思われ、練習相手、レベル向上のチャンスに恵まれない問題をどう解決するかによって、彼の輝かしい将来が左右されることになるであろう。

リム・スイ・キンの3連覇の夢は破れたが、彼に挑戦できる力をもったプレーヤーがあらわれたのは、喜ぶべきことであり、きたるべき5月の世界選手権、そして9月に予定されている第2回マスターズ、さらに来年のオールイングランド大会での両者の対決が、いっそう興味深いものとなってきた。

男子シングルス決勝・得点経過



緒戦から決勝まで、徹底したきびしさで、女王の座をいっそう不動のものとしたリーン・コーペン――



▼48名が狙う女王の座

女子シングルスは48名が女王の座を競った。

シード選手は、第1シード昨年の覇者リーン・コーペン（デンマーク）を初めとし、インドネシアのイバナ、イングランドのギルクス、カレン・ブリッジ、日本の近藤、米倉、湯木、そしてベラワティ（インドネシア）がシードされた。

優勝候補のコーペンは準々決勝でイバナと対戦せねばならず、コーペンがイバナに勝った場合は、準決勝の対戦相手としては、ギルクス対近藤の勝者が最も有力な見方であり、さらにそれにも勝った場合には、決勝では米倉対湯木もしくはベラワティの↖勝者というのが妥当な予想であった。

反対側の山では、日本の新しいチャンピオン米倉の準決勝入りはほぼまちがいのないところであったが、もう一方の準決勝進出者として湯木がはいるためには、どうしてもベラワティを倒さねばならないという組合せであった。

○ラーセン大金星

さて、女子シングルスが幕をあけたとたんに、とてつもないハプニングが起こった。

今年の第2回ワールドカップ京都大会で大器の片りんを見せたデンマーク・18歳の新鋭キルステン・ラーセンが、会場をあっといわせることをやってのけた。

すなわち、イギリス・ナンバーワンであり、過去2回オールイングランドのシングルスを制しているギルクスと1回戦で対戦したラーセンは、11―4、11―6の堂々たるスコアで、あれよあれよという間に勝利をものにしてしまったからである。

無心の勝利といえば、それまでかも知れないが、とにかくラーセンは、ギルクスの放つ球をかたっぱしから拾いまくり、それに対してギルクスはいつもの動きが見られないまま、ラーセンに得点を許してしまったというのが実情であった。

翌日の地元ガーディアン紙によれば、「試合後のギルクスは冷静であり、そしてこのようなことは以前、しかもずっと前に一度起こった、とも語っていた」と報じていた。

とにかくギルクスが敗れたことにより、近藤が準々決勝でラーセンと対戦することが濃厚となり、近藤にとっては、第2回ワールドカップでの借りを返す絶好の機会に恵まれたといえる。

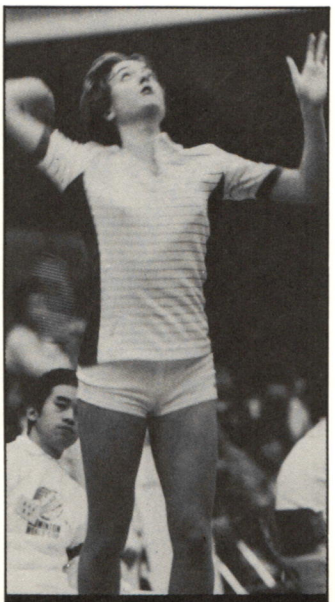
その後、ラーセンは3回戦でインドのギアを11―7、11―0で破り、いよいよ近藤との準々決勝を迎えた。

✖運命のサーブ・ミス

第1ゲーム、ラーセンは得意の角度あるスマッシュ、長いリーチを生かして近藤を走らせ、近藤も前回の経験から、何とか長いリーチのあるラーセンの頭上を抜くような配球を心がけていたが、チャンスをつくるべきドリブン・クリアーがやはり低く、そしてスピードが十分でないために、ことごとくラーセンにつかまり、それが自分の不利となる落差のあるドロップショットとして返ってくるといった具合で、結局11―5でラーセン↘が先取した。

しかし、試合内容を見るかぎりでは、近藤はまだ十分にばんかいできる可能性があった。

第2ゲームにはいると、近藤は以前にも増して鋭いアタックをかけたが、やはりラーセンの長いリーチに手こずり、じりじりとリードを許し、スコアはラーセンの10―5マッチポイント。↖



ギルクスをいきなり破り、2年連続準優勝の近藤をも倒した、まさに〝大型新人〟のキルステン・ラーセン――

もう後がなくなったわけである。

ここで近藤は作戦を変えて、今までのロングハイ・サービスからショート・サービスに切りかえた。

これが、前回、前々回の準優勝者をあと1本で破るのだというのと同時に、何とかうまく返さねば、という心理的負担をラーセンに与え、ラーセンは手首に力がはいってミスを連発し、近藤は9―10まで追い上げた。

あと1本でセッティング――しかし、ここで近藤は致命的なミスをおかしてしまった。

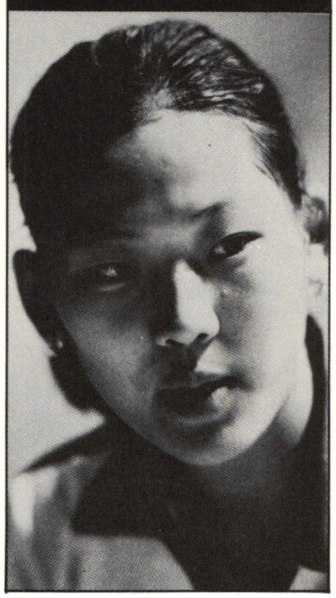
ラーセンのアタックを警戒するあまり、何でもないショート・サービスをネットにひっかけてしまったのである。

○涙にむせぶベスト4

このサービスがはいっていれば、状況からして10オールのタイにもちこめたことは必至であり、逆転の絶好のチャンスであった。そういう貴重なサービス

Ladies Singles

念願の決勝進出を果たしたベラワティ。惜しくも2位にとどまったが、若いベラには未来が広がっている―



ラーセンの、ベスト4入りが決まる↘

であった。

このサービス・ミスに助けられたかのように、ラーセンは気を取り直し、最後、必死に拾いまくる近藤のねばりもむなしく、ラーセンの放ったプッシュがセンターにもどりきれない近藤のウラをかいて近藤のフォアハンド奥に、それこそポトリと落ち、ラーセンのベスト4入りが決まった。

近藤の調子はいつになく良く、ワールドカップで負けた後、湯木がどのようにしてラーセンに勝ったかをよく思いおこして戦えば、このような不覚をとることはなく、準決勝に進めたはずである。やはりドリブン・クリアーよりハイ・クリアー、そしてカットよりドロップショット↖を多発して試合を展開すれば、もっと勝機があったと思われる。

"ベンチに戻ってきたラーセンは、まるで優勝したかのように大粒の涙を流し、僚友のコーペンに祝福され、ただ泣きじゃくるだけであった。

ラーセンは大型選手にみられがちなヒザの弱さが見られず、長いリーチを生かしてふつうならヘアピンしかリターンできないと思われるドロップ・ショットも、十分に高く、そして深く返せる前への突っこみをもっており、1回戦でギルクスを破ったのがフロックでなかったことを見事に証明した。

○米倉じっくり攻めてベスト4

さて、もう一方の山では準々決勝にイングランドのカレン・ブリッジ、日本の米倉、湯木そしてインドネシアのベラワティのシード選手が、予想どおり順調に顔を出してきた。

ブリッジ対米倉の試合は、第1ゲーム、ブリッジが最初から猛然とスパート。クロスのスマッシュもよく決まり11―6で先取したが、やはりとばしすぎということが第2ゲームにありありとあらわれ、11―0で米倉が楽勝し、ファイナル・ゲームへとはいった。

5分間のインターバルで回復をはかったブリッジだが、そのあたりを十分に読んだ米倉は、無理な攻撃をしかけず、クリアー、ドロップショットで相手の体勢をくずしてからトドメをさす作戦をとり、さらに米倉のフォアハンドからくり出すフェイント気味のドロップが要所要所で効果を発揮し、第3ゲームも11―2と簡単にとって準決勝入りを果たした。

✖重いスマッシュに湯木無念

一方過去本大会4回の優勝経験をもつ湯木は、インドネシアの大型選手ベラワティと対戦した。

技の湯木が力のベラワティをどのように制するか注目されたが、いざフタをあけてみると、ベラワティの重いストロークがグサリグサリという感じで湯木のコートに突きささり、11―6、11―6のストレートで、パワーのベラワティの勝利となってしまった。

本命のコーペンは、2回戦で西ドイツのS・ヤンセンに第2ゲーム1ポイント差の11―10で冷や汗をかいたほかは、3回戦レッドビーター（イングランド）を11―1、11―4、準々決勝イバナ（インドネシア）11―1、11―1と楽勝した。

イバナにはデンマーク・オープンで苦杯を喫しており、接戦が予想されたが、今回はイバナに元気なく、さした苦労もなくゆうゆうと準決勝に進出した。

○ベラ念願の決勝進出

これで準決勝はデンマーク同士のコーペン対キルステン・ラーセン、日本チャンピオンの米倉対ベラワティの間で争われることとなった。

コーペン対ラーセンの準決勝第1試合は、コーペンがまったく手の内を知っており、ラーセンとしては、若さにまかせてパワーで体当たりするしか勝ち目はなかった。それにしてもコーペンの気迫はすさまじく、同僚とて容赦しないといった感じで、つけいるスキをまったく与えず、アッという間に11―0、11―0で完封してしまった。

ラーセンもけんめいに食い下がったが、とにかくコーペンはラーセンの弱点を知り尽しており、そこへ丁寧に球を回し、追いつめて決めるというパターンで、ラーセンに小指の先ほどのチャンスも与えなかった。

準決勝第2試合の米倉対ベラワティは、すべり出しやはりベラワティの強力なスマッシュがズシリズシリと決まって11―4で先取。第2ゲームにはいると米倉にもエンジンがかかり、ベラワティをじわりじわりと追いつめていったが、かんじんの所でベラワティのくり出すラウンド・ザ・ヘッド・ストロークに体を泳がされることがしばしばで、結局これが決め手となって、11―9でベラワティが決勝へ進んだ。

米倉の敗因としては、ベラワティのような重い、角度あるストロークをもった選手を相手に多く試合をしていないこと、そしてゲーム開始直後にリードがとれないことがあげられる。

ベラワティは大型の体格に似合わぬ柔軟な身体をもっており、しかも、あまりバックハンドを使わず、バック奥をつかれても、ラウンド・ザ・ヘッドで打ち返すというパターンであって、バ

日本から世界へ飛びたつ米倉。ベスト4どまりとはいえ、彼女もまだ若い。前途は洋々なのだ――――



ックハンド・ストロークがあまりにもポピュラーになった今、何となくクラシックな感じのするプレーヤーである。

インドネシアからの女子シングルス決勝進出は、これまた大会史上初であり、プラカシュがインド人として全種目を通して初の決勝進出・優勝となった記録とあわせ、長いオールイングランドの歴史に新しい1ページを書き加えた。

○手放しで大喜びのLK

さて決勝であるが、コーペン対ベラワティ、この対戦は昨年11月にデンマーク・ユトランドで行なわれたランダース・オープンに続く、2度目のものである。ユトランドでは、準決勝で〝ベラワティが11―7、11―5のストレートで地元のコーペンを破っている。

しかし、ランダース、オープンと全英選手権とでは、大会の規模、会場の雰囲気、選手にかかるプレッシャーなど比べものにならず、当然コーペンの巻返しが予想された。

決勝までにコーペンの8ゲーム中17失点に対し、〝ベラワティは8ゲーム中36失点と、圧倒的にコーペンが楽に勝ち上がってきたことを示している。

さて、〝ラブ・オール・プレー〟が宣せられてみると、やはり決勝初進出というプレッシャーがベラワティにありありとみられ、それがコントロールの不足という面であらわれ、第1ゲームは11―2の一方的結果でコーペンが先取し、2連覇へ一歩近づいた。

第2ゲームにはいるとベラワティは、パワーにまかせて打ちまくり、前へ突進し、そしてのけぞってクリアーを返し、小柄なコーペンをコートの前後左右にふり回す作戦に出た。しかし、ここでもいかんせんコントロール不足が目立ち、これに対しコーペンのコントロールの何と正確なことか。

〝ベラワティの球が数十センチもアウトなのに対して、コーペンのはアウトでも数ミリ、ほとんどがオン・ラインといった正確さで、選球を試みたベラワティの努力もほとんどムダといった状態であった。

最終的にはこのコントロールの差が明暗を分け、第2ゲームも11―6でコーペンがものにし、2連勝を飾った。

優勝したコーペンは、やっとその緊張した顔をほころばせて笑顔を満場の観衆にふりまき、そしてまたデンマークからはるばる応援にきた多くのファンに対してもわざわざ近くに行って両手をあげ、「勝ったわよ」というゼスチャーを示し、まったく手放しの喜びようであった。

〝ベラワティもよく戦ったが、レシーブの正確さ、コントロールのよさという点でやはりコーペンにかなわず、かぶとを脱がなければならなかった。

今回のコーペンをみるかぎり、まったく安定し、危げなく優勝をさらっており、今後はよほどの体調不調というアクシデントでもないかぎり、ますます安定した実力を発揮するのではないだろうか。

▼15歳の新人に祝福

その他のトピックとしては、今大会へレン・トロークという15歳になるサザンプトン（イギリス）の女学生が、予選を勝ち抜いて本大会に出場し大会史上最年少の女子シングルス出場者という記録を残した。

彼女は1回戦でやはり予選を通過して出場したイングランドのビューリーと対戦し、善戦したが、11―2、7―11、9―11で惜しくも2回戦進出はならなかった。

しかし、イングランド協会は彼女の出場を記念し、また彼女を賛えるために、表彰式の席上、来賓のビューフォート公をはじめとする人々に花束贈呈の役を与え、場内にも紹介され、満場の拍手をあびていた。

他の日本選手については、徳田はシングルス棄権、高田は2回戦でギア（インドネシア）に接戦の末8―11、12―10、9―11で敗れ、石田は1、2回戦をストレートで勝ち、3回戦に進出、カレン・ブリッジと対戦したが7―11、7―11で惜敗した。

ユーバー杯防衛を来年に控えているという観点からみるならば、もう一歩得点能力を備えなければ、という印象を強く受けた。

○地元ペア大奮戦

〝ベスト8に顔を出したのは、チュンチュン・ワジュディ組、クリスチャン・チャンドラ組、カルトノ・ハリヤント組のインドネシア勢、日本期待の飯野・土田組、デンマークの長身コンビ、デルフス・スコブガード組、地元イングランドのスティーブンス・トレジュット組、マレーシアのR・シデク、J・シデク組、そしてデンマークのハンセン・フラッドベルグ組であった。

さすがにインドネシア勢は強い。

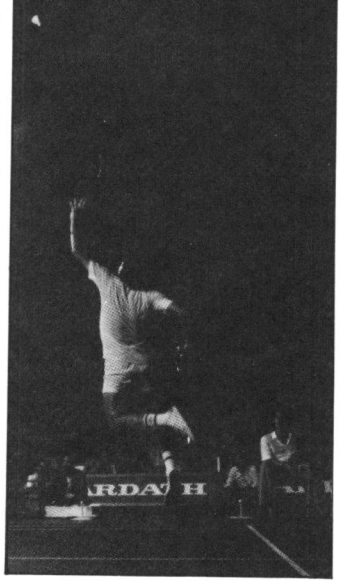
また、マレーシアのシデク組の活躍はすばらしく、大接戦の

Ladies Singles

すえキールストロム組を破った勢いで、準々決勝でもインドネシアのカルトノ組を文字どおり撃破し、ベスト4入りしてしまった。

他のベスト4入り組は、チュンチュン組、クリスチャン組、そして今大会絶好調でがっちり気合のはいった地元のスティーブンス組であった。

このチュンチュンのジャンプスマッシュと、ワジュディの安定したプレーが今年も栄冠をもたらした——



スティーブンス・トレジェットは、デルフス・スコブガードと互角に打ち合い、またよくレシーブして食いついて離れないガッツぶりをみせ、11—15、15—12、15—11という大接戦で長身ペアを降し、地元の大声援を受けた。さらに準決勝でもその好調ぶりを維持し、クリスチャン・チャンドラに真正面から立ち向かい、クリスチャン顔負けのトレジェットのレシーブ、チャンドラのお株を奪ったようなスティーブンスのスマッシュが次々と決まり、クリスチャン組のエンジンを開を押えて15—6、15—12で決勝進出を果たし、またもや会場の大かっさいをあびた。

○強しチャンピオン・ペア

準決勝第2試合のチュンチュン・ワジュディ対シデク・シデクは、第1ゲームシデク組がよく打ち、チュンチュン組の大きなリードを許さなかったが、しめるべきところをしめたチュンチュン組が15—11で取り、第2ゲームは、シデク組力尽きたかのような形でくずれ、15—4の大差でチュンチュン・ワジュディが決勝へ進んだ。

▼絶好調そのもの

決勝はイングランド・ペアの登場とあって、場内大いにスティーブンス・トレジェットに期待したが、スティーブンス組はその期待にこたえるかのように、またも素晴しいプレーを展開、15—10で1ゲームを先取し、押せ押せのムードとなった。

チュンチュン・ワジュディが調子が悪いというわけではないのだが、スティーブンスとトレジェットの粘りがすさまじく、どんな球でもあきらめずとびついて返すので、チュンチュン組もいささか勝手がちがうといった調子で2ゲーム目も推移。

しかし、チャンピオンの貫禄で、2ゲーム目はチュンチュン組が15—9で取り、決勝としては最も興奮した緊迫のゲームとなった。

○エクストラ・トップギヤ

5分のインターバルが終り、第3ゲームにはいっても両者の攻防は激烈をきわめ、一歩も引かない素晴しい試合となった。もうこのへんでスティーブンス組も力尽きるのでは……と思っていた観衆は、その予想以上の奮戦ぶりに大喜び。

チュンチュンのジャンプスマッシュも連続して飛び出すし、ワジュディのしなやかなインターセプトにうならされ、スティーブンスのガッツなスマッシュとレシーブ、そしてトレジェットのしぶいカウンターレシーブと、もりだくさんの見せ場のなかで、試合は終盤にさしかかった。

10点をすぎると、チュンチュン組はスティーブンス組の得点をピタリと封し、逆に自分たちにサービス権のあるときは確実に得点を加えていき、結局15—10で第3ゲームを制した。

優勝が決まった瞬間、チュンチュンとワジュディはジャンプスマッシュ以上に飛び上がり、その喜びを表現した。

ここに4連勝6度目の優勝をとげ、一九六一年から一九六四年にかけてデンマークのコペロ・ハンセン組がつくった記録にタイとなった。

最後の5ポイントは、スティーブンス組がくずれたというのではなく、チュンチュン組が取ったというのが正確であり、これだけの長時間の試合の中でも、最後には、トップギヤの一つ上のエクストラ・トップギヤとでもいうべきものをもっているのは、やはりこれだけ勝ち抜いてきたチャンピオンだからであろう。

その一つがチュンチュンのジャンプスマッシュであり、またワジュディの安定したサービスである。

✖力不足の日本チーム

日本選手は前述のように、飯野・土田組がベスト8どまりだったのをはじめ、池田・尾崎組が3回戦でハンセン・フラッドベルグ組に1—15、6—15で完敗。長谷川・辻組は2回戦でシデク・ブーン組（マレーシア）に15—11、15—17、5—15で惜敗するなど、総してもうひと息というところであった。

▼順当に強豪ペアが上位へ

シードペアのうち、ダブルスを棄権した湯木・石田組を除いて、ベラワティ・イメルダ、イバナ・グワン（インドネシア）、ヤングバーグ・バックハウス（カナダ）、ビューセコム・リダー（オランダ）、米倉・徳田、近藤・高田、そしてギルクス・ペリーがベスト8入りしてきた。

湯木・石田の山からはデンマークのボルグストロム・スコブガードのペアが抜け出し、ベスト8に進出した。

一番乗に準決勝入りしたのはギルクス組。ボルグストロム組

シングルスでは思わぬ不覚をとったが、ノラ・ペリーと組んだダブルスで見事に一矢を報いたギルクス――



を15―2、15―1でかたづけ、余裕をのぞかせた。

反対に手こずったのは近藤組。イバナ組に第2ゲームセッティングまで食いつかれ、18―15でやっとつき放し、準決勝入りした。

○昨年チャンピオンに完勝

準決勝第1試合は、ベラワティ・イメルダ対米倉・徳田の間で行なわれた。この顔合わせは↘

今年のワールドカップ京都大会の決勝で実現しており、この時は大接戦となったが米倉組が辛勝している。

しかし、今回はホームグラウンドではない。第1ゲーム早々から予想通り一進一退の試合が続いた。サーブのつぶし合いが多く、スコアは遅々として進まない。ラリーも長く、好レシーブの連続となった。↖

そんな中から、米倉組がやっとぬけ出し、第1ゲームを15―11で先取。しかし、これといった決め手はなく、いていえば、ベラワティをうまく前に誘い出した時、得点につながるケースが多いことがあげられる。

第2ゲームも同じような展開となり、追いつ追われつの末、セッティングにもつれこんだ。

ここでも米倉・徳田はよくしんぼうして、勝ちをあせらず、うまくベラワティに球を回して17―16で逃げ切った。

✖リーチとパワーの差に完敗

第2試合のギルクス・ペリー対近藤・高田のゲームは、攻撃力にまさるギルクス組をいかにかわすかが勝敗の分かれ目であったが、リーチの差、パワーの差はいかんともしがたく、近藤・高田は5―15、5―15のストレートで敗退。決勝は米倉・徳田対ギルクス・ペリーの初の顔合わせとなった。

○攻撃は最大の防御なり

第1ゲームすべり出し、米倉・徳田は0―4とリードされたが、その後打合いを避け、ギルクス・ペリーの中間をねらう作戦がズバリ的中し、11ポイントを連取。この貯金が大きくモノをいって、14―6から連続4本をとられ、追い上げられながらも、そのまま逃げ切った。

ところが第2ゲームにはいると、相手をかわす作戦が忘れられたかのように打合いにひきずりこまれ、ギルクス・ペリーの強打をあびて7―15で失い、1―1のタイとなった。

第3ゲームにはいると、またうまく米倉・徳田のギヤがかみ合いはじめ、6―7とせり合いをつづけたが、その後サービスオーバーからチェンジェンドを含め4本を失い、11―6と離された。

前半の動きからは考えられないことで、突然ラリーがなくなり、単発のミスをくり返して相手に得点を許してしまった。

フッと気が抜けてしまったとしかいいようのないプレーであり、これがギルクス・ペリーに混戦をぬけ出すチャンスを与えてしまい、その後さした抵抗もできぬまま、6―15でギルクス・ペリーに優勝をゆずってしまった。

米倉・徳田は準決勝のほうがはるかにのびのびとプレーしており、レシーブもよく、そういった点から考えると、コンビを組んで初の大試合の決勝によるプレッシャー、そして角度のある速いスマッシュに対する弱さ、守りに立たされてから攻撃に切り返す力の不足などが敗因としてあげられる。

ギルクス・ペリーの攻撃力は女子ダブルスの中ではやはり群を抜いており、攻撃を始めたら素晴しいものがある。

弱点とすれば、決勝の第1ゲーム目でみせたように中間ボールに対する弱さであり、強打を封じられた時である。

いずれにせよ。〝攻撃は最大の防御〟のことばが示すとおり、攻撃を続けられるかぎりは、世界のトップクラス・ペアということができる。

✖クリスチャンに気迫なし

混合ダブルス決勝は昨年と同じクリスチャン・イメルダ組（インドネシア）とトレジェット・ペリー組（イングランド）の対戦となった。

トレジェット・ペリーはともにダブルス決勝を終えてからの、当日2度目の出場であり、クリスチャン・イメルダ組は、この試合だけ。

当然のことながら、トレジェット組は、スタミナに若干のハンディがあるとみられた。クリスチャンとイメルダは、ともに今回は得意のダブルスのトロフィーを手に入れることができなかったため、せめてこの種目は防衛しなければ、という気持が強かったにちがいない。

だが、スタミナのハンディどころかトレジェット組の絶好調の波は依然続いており、第1ゲーム、セッティングとなったものの18―13で先取した。

一方のクリスチャンは、何となくプレーに粘りがなく、完全に抜かれた球は追いかけようとしないなど、やや気力に欠け、第2ゲームにはいっても、攻撃の手をゆるめないトレジェット組の前に15―10で敗れ、チャンピオンの座を明け渡してしまった。

トレジェット・ペリー組の優勝は、最後まで満員の観客を引きつけ、初の試みである日曜日開催を心配していた関係者もホッとしていた。

Ladies Doubles Mixed

美人チームで～す!!（千葉）



まだまだ全力を出し切ってませんが、（初日の2試合を経過したところでインタビュー）昨年優勝したから今年もやはり勝ちたいですね。でも今年はキツそう。

混成チームですが、各自週に5回ぐらい練習しています。

今夜は東京に宿泊するので、楽しみにしています。

何しろ、千葉を代表する美人チーム（？）で～す。

〈メンバー〉渡辺佳子、朝井多み江、遠藤幸子、小野田芳美、村田勝子、小柳智恵子、藤田久美子、山田理恵、唐橋信子

経験は2年だけど（茨城・水戸）



今朝5時に水戸を発ってきました。

初めての遠征なので、全員カチカチに固くなりました。

学生時代の経験者が一人もいないので、とてもいい勉強になりました。

平均の経験年数は2年ぐらい、地元の笠松クラブで笠原さんの指導のもと、週に2回練習しています。

楽しみながら、試合にもどしどし出場したいですね。

〈メンバー〉鈴木さた子、小野瀬俊子、島田京子、深谷とし子、瀬尾沙梨子、真流敬子、渡辺ケサ子、照沼芳子、樫村亜津子、楠雪路

10年ぶりの再会（埼玉・上尾）



初めての出場なのに、練習不足だからやるだけです。

ほとんど経験者で週に1回は練習していますが、パートナー同士がなかなか一緒に練習できないというのが悩みですね。練習の豊富な方は、やっぱり足が違いますね。

もっともっと経験者に出てきてもらいたいです。

高校時代のパートナーや、地方に行ってしまった人たちと10年ぶりに会えたり、とても楽しいですね。

ヘタの横好きなんですが…。

〈メンバー〉小泉保子、岡田美智子、立花よう子、飯浜信子、高山初枝、増田亮子

今朝は4時起き（群馬・前橋）



今年初めての出場ですが、たまには一年に1回ぐらい家を離れてみるのもいいものですね。

今日は4時起きしてきました。

少し上がってしまいましたが、なんとかトーナメントに出場できそうです。

58年は赤城国体ですから、勉強になります。

〈メンバー〉加藤良子、松村公子、小島君江、長岡直美、石井弘子、渡辺厚子、

やっぱり日帰りコース（埼玉・浦和Ｂ）



浦和からやってきました。それぞれ「あすなろA」か「B」に所属しています。

現在1勝1敗の瀬戸際で、やっぱり日帰りになりそう。（結局3戦目に敗れて、トーナメント出場はなりませんでした）

神奈川Aチームは強くて、手も足もでませんでした。

少し固くなりました。

週2回ほど練習しています。経験者は2名、それもブランクが15年だったりで……、でもいいコーチ（小林静男さん）に恵まれているので、これからも頑張ります。

〈メンバー〉鈴木悦子、細川韶子、藤田一子、細川明美、村山陽子、渡辺和子

今後に生かしたい（埼玉・大宮）



初出場です。よその県やチームがどんなものか様子を見にきました。

皆さんとても上手に見えて仕方ありません。

私たちは、親睦第一でやってきたんですが、ここにきてやっと試合に出られるようになったので、大きな試合は昨年の関東大会あたりから出ています。

クラブ内だけで楽しんでいたのが、視野が広がるような気がします。

今後に生かしたいですね。

正選手が2人欠けたのが残念といえば残念でした。

〈メンバー〉針谷和子、近藤久美子、高須静子、富田富美子、菅沼淑子、鈴木喜穂、池田フジ子、堀都芳子

■出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

スターティング・バドミントン

バドミントン史上最強の天才女子プレーヤーが、その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――!!

★著者紹介★

ジュディ・ハッシュマン（Judy Hashman）は、アメリカを代表して20年間も第一線で活躍したJ・F・デブリンの娘として生まれる。全英選手権において、シングルス優勝10回、ダブルス優勝7回をとげている。また、アメリカ代表選手として14年間活躍、全米オープンでは単複にそれぞれ12回も優勝している。



これから始める人へ

ジュディ・ハッシュマン

後藤忠弘訳

すぐに役立つ決定版!!

好評発売中!!

指導者のハンドブック

B5変形判（182ミリ×205ミリ）

定価1200円（送料160円）

〈本書の内容〉

1　ラケットを持つ前に

バドミントンは楽しい／投げる力が基本／さあ、コートに出よう ほか

2　ストローク入門

ラケットの握り方／バックハンドのグリップ／スナップを十分にきかせる／ラケットの振り方／バックスイング／フォワード・スイング／フットワーク／ストロークを身につけるための練習／ネットプレーのための練習 ほか

3　クリアーとドロップ

クリアー／オーバーヘッドの場合／アンダーアームの場合／ドロップ・ショット ほか

4　サービスの基本と上達法

ハイ・サービス／ハイ・サービスのテクニック／ショート・サービス／打点は高く、フライトは低く／その他のサービス ほか

5　バックハンドを身につける

アンダー・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンドのコツ／バックハンドを練習する時のポイント ほか

6　ウェアと用具

用具の四原則／シューズ／上着／ラケット ほか

7　ネバー・ギブアップ

準備にベストを尽くす／自分が苦しい時は相手も苦しい／「もし……すれば」は禁物／目に見えない敵に勝つ／いくつもの練習を組み合わせる ほか

8　集中力と精神力

〝勝つ〟信念が勝利をよぶ／チャンスのくるまで粘りつづける／目標をしっかり持つ／〝読み〟のできるプレーヤーに／未知に挑戦する喜び ほか

9　コンディションの調整

うまくなるための要素／ランジングの練習／実力あるのみ／スタミナのもとは食事 ほか

10　パターン練習

練習は試合以上のものを／精神のスタミナを／ハッシュマン式パターン練習／半面練習 ほか

11　基本的な戦術

シングルスの戦術／サービスに安定性を／高度なことはやらなくてよい／タテにゆさぶる／ダブルスの戦術／一にも二にも攻撃／苦しくても〝考えた配球〟を ほか

★日本の実情に合わせて椙野尾昌一・悦子夫妻がワン・ポイント・アドバイス!!

★連続写真；ルディ・ハルトノ、リム・スイ・キン、パデュコーン・プラカシュ、スヴェン・プリら7フォームを収録して、さらにわかりやすくなっています!!

認識不足の〝羽根つき〟

〈前略〉ぼくがバドミントンを始めてもう2年がすぎ、すっかりバドミントンにとりつかれてしまいました。

バドミントンをやったことのある人は、激しく苦しいスポーツだということはわかっていると思いますが、やったことのない人は「女のスポーツ」「羽根つき」などといいます。

マスコミの間でも、まだあまりあつかわれません。これはどうしてなのでしょうか。

今、日本は男女とも世界の五本の指に入るといわれています。どうしてこのような国でバドミントンがコケにされるのでしょうか。

ぼくは自分なりに考えてみたんですが、まず第一にスポーツとしてやる人が少なく、羽根つきという考えでやっている人が多い、第二にスポーツとしてあまり知られていない。などいろいろあるが、うちの学校の部の場合〝軽スポーツ〟ただの羽根つきだと思って入部して、一月ぐらいで部活動の練習が苦しくて、出てこなくなります。

前のことからわかるように、軽スポーツという考え方が多いようです。全国のバドミントンの選手のみなさん、自分のまわりの人々にバドミントンの苦しさをおしえてあげましょう。

（横浜市・板橋純・14歳）

〈編集部から〉

同感ですね。おっしゃる通りです。スポーツ人口が増えてきたといっても、バドミントンがハードスポーツであることを知っている人はごく少数の人です。こんなことがありました。あるテレビ番組の司会者が「あなたはどんなスポーツをしていますか」とたずねますと、出場者が「バドミントン」と答えました。司会者は「ずいぶん女性的なことやっているんですね」と一笑に伏しただけでした。しかしだからといって、この司会者の認識不足を責めることはできません。誰だってバドミントンを本格的にやったことがなければ、激しく厳しいスポーツであるということを知る機会はないのです。口でいくら「バドミントンはハード」だといっても、どんな人でもなかなか納得できないものです。一度でもいいから、スポーツとしてのバドミントンに手を染めることが、バドミントンを理解できる最良の方法に違いないのです。しかし、日本にはスポーツというスポーツが氾濫しています。その中から人々が〝バドミントン〟を選ぶことは容易ではありません。そこで、どうしたらバドミントンに人々の目を向けさせることができるか、これがこれからのバドミントンに携わる人にとっての大きな課題といえるでしょう。

でも、ひと頃に比べると徐徐にではありますが、バドミントン人口が増えていることも事実です。悲観することもまたないのです。バドミントン関係者が一丸となって、知恵を絞り出し、地道な努力をする雰囲気が高まれば、かならず道は開けるはずです。われわれ編集部も努力します。読者の皆さんも、一緒になって考えてみようではありませんか。

読者と編集

この欄への投稿を募集しています。採用の方には、記念品を贈呈!!

集中力が続かない

私は、バドミントンを始めてまだ一年足らずですが、試合の前半は神経が集中してよい試合ができるのですが、どうも神経集中が長つづきせずに、途中であきらめてしまいます。どうしてあきらめてしまうのでしょうか。

（徳島市・新居崎杉彦・16歳）

〈編集部から〉

集中力を養いそれを維持することは、バドミントンにとっては不可欠のことです。そして神経を三十分、一時間と集中させることは大変難かしいことです。でもバドミントンは15ポイントを先取することを2回繰り返さなければなりません。素晴らしいショットを決めても、ミスがそれを上回ってしまえば負けです。先にマッチポイントを握っても、あと一本が取れなければ負けです。

新居崎クンのプレーぶりを見ていないので何ともいえませんが、まずその15ポイントを2回先取してこそ〝勝利〟といえることを頭に叩き込んでください。そして、神経とか精神とかの集中力も、体力的な裏づけがあっていえることです。スタミナがなくなれば神経も鈍るし精神を統一することもできません。体力的な面に欠陥がないか、もう一度よく振り返ってみてください。技術的にはそれこそ見当がつきかねますが、犯したミスをそのままにしないで、何故ミスをしたのか、よく考えることです。どこがいけなかったかよく点検しながら、反省しながら試合を行なえば、次のラリーに対する意欲も湧いてくるのではありませんか。





●YOKOHAMA ☎(5F)045-651-2020 (4F)662-7133
●SHIBUYA ☎03-400-7390
●IKEBUKURO ☎03-988-0215
●KICHIJOZI ☎0422-21-7890
●FUJISAWA ☎0466-26-2552

ラケットショップ元町®





ゴーセンの道具にはいつも光るものがある……

個性という二文字。

20世紀の科学が生んだ極めつきの素材——カーボンを限りなく個性的に活用するゴーセン。そのカーボンで補強した人気のガットをはじめ、世界初の超軽量(UXL級)100%カーボンジョイントレスラケットを可能にしたゴーセンならではの技術を結集した道具をズラリ揃えて、ただ今ジョイフルなキャンペーンを実施中。さあ、あなたの個性にフィットした道具で、いまこそテクニックアップをはかるチャンスです!

着るか持つか……
当たる当たる……
100日キャンペーン
実施中!!

PRESENT



キャンペーン期間中(8/8まで)

●ラケットにTシャツかミニバッグがついてくるぞ。さらにグリップ包装部のGOSENシールを送ればキャンペーン終了後抽選で100名に同じラケットをもう1本!

●シャトルのパッケージについているGOSENシールを送れば抽選で毎月50名にそれぞれ3ダースのシャトルが当たる……。●ガットのパッケージについているGOSENマークを切り取り送れば、抽選で毎月1000名にTシャツ、毎月500名にミニバッグ……もちろん、選択はキミまかせ。さあ!利用しない手はないぞ!このチャンス。詳しくは、お近くのプロショップ、スポーツ店で。

対象商品



●バドミントンラケット
カーボンスラッグフェスト・RB-85、RB-80
グラボン707／プロケネックス302



●シャトルコック
スワニー・ゴールド
スワニー・シルバー
スワニー・グリーン
スワニー・レッド
●ナイロンシャトル
RSLコンピートターニー
RSLコンピート
RSLビクター
RSLグラージュ



●バドミントン用ガット
ウインテックス・ワイヤー／ウインテックス／ウインテックス・カーボン／ハイ・オー・シープ／ハイ・シープ・スーパーゴールド／ハイ・シープ・スーパー／ハイ・シープ・デラックス／ハイ・シープ

応募方法

パッケージについているGOSENマークあるいはシールを切り取り、住所・氏名・年令・職業(学校名)・所属クラブ・お買い上げ商品名・お買い上げ店名を明記のうえ、封書又は店頭の応募ハガキで下記までお送りください。第1回＝5月末日、第2回＝6月末日、第3回＝8月8日抽選のうえ、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

応募期間

昭和55年8月8日まで(当日消印有効)

送付先

〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン スポーツ用品部キャンペーン係

GOSEN

株式会社 ゴーセン

本　　社 ● 〒540 大阪市東区豊後町4 ☎ (06)942-5816代
東京支店 ● 〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576代
福岡営業所 ● 〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247代
北陸営業所 ● 〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200代


JOY JOY CAMPAIGN
100 days
GOSEN
8月8日までキャンペーン実施中!
道具はプレーを超えられるか
BE IN RACKET SPIRIT

全に一体化して、腕の一部分になってしまいます。だから、これまでにないプレイの領域がひろがり、考えられないようなハイテクニックが生まれてくるのです。バドミントンが、また進歩しました。

B-8500 FULL CARBON SHAFT RACKET
Carbonex8

〈カーボネックス・エイト〉：色／イエロー・オレンジ・グリーン
重量表示／U(99g～95g) 2-U(94g～90g)

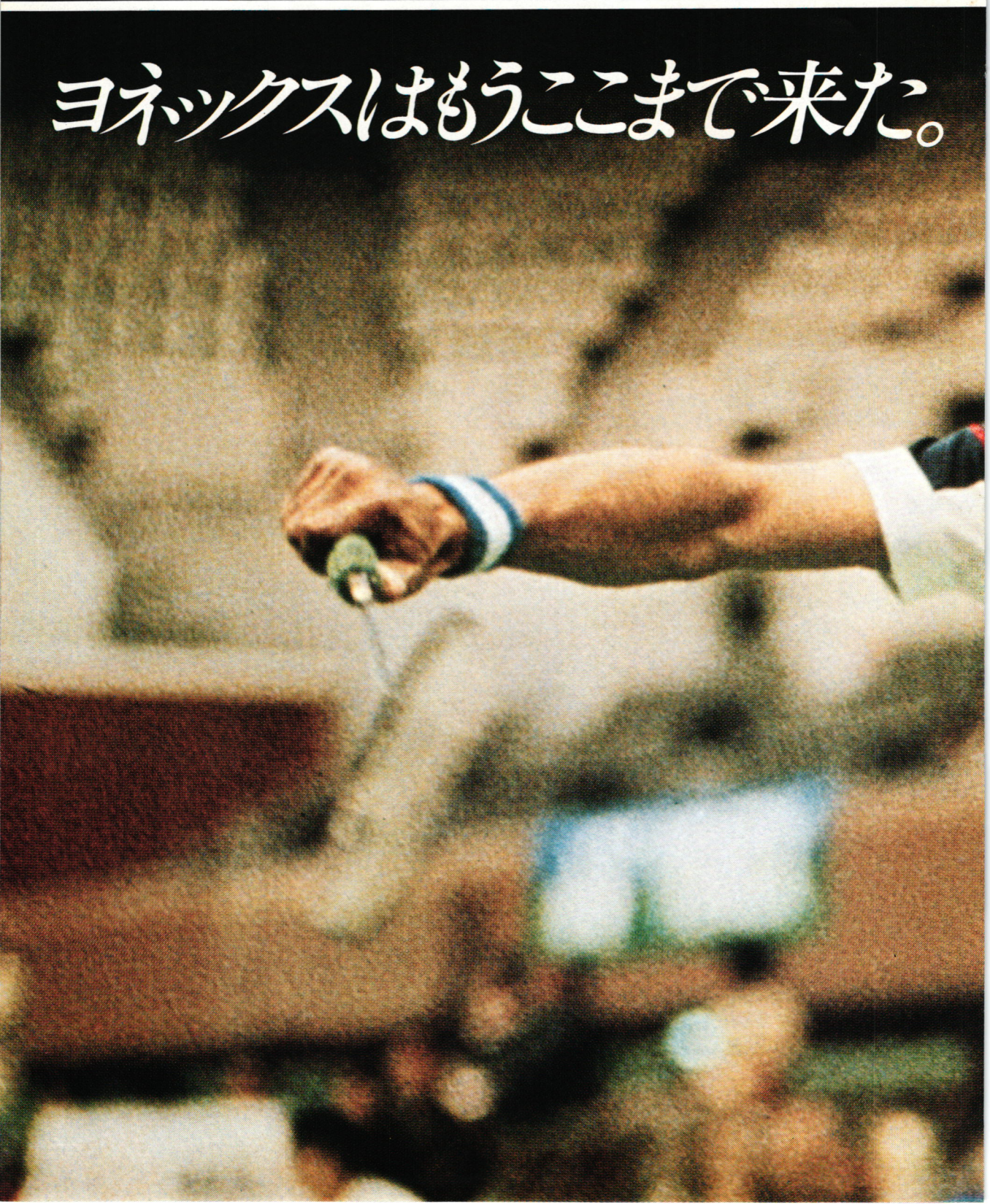
YONEX®



'80全英バドミントンチャンピオン
プラカシュ・パデュコーン(インド)

ヨネックスはもうここまで来た。

驚異の100g以下、そして脅威の310kmを達成。打速の新記録を達成しました。 まさに脅威的。世界のプレイヤーが息をのむ。驚くほど軽くなって、驚くほどパワーアップしたフルカーボンシャフトラケットです。こうした記録破りのスピードを、この超軽量100g以下ラケットが可能にしたことは世界でも他に例のないことです。ウエイトを下げるとラケットがひ弱になるという、従来の古い考え方をヨネックスが見事にくつがえしてしまいました。 フレームに特殊アルミ合金、世界に特許のT型ジョイント、そしてシャフトはフルカーボンを使用。全身、科学的に設計され、ウエイトを下げ、パワーをぐんとグレードアップするという理想をまたひとつ実現したのです。見るからに、持つからに、それは凄いラケットという印象。ラケットの軽さもここまでくると、もう腕と完





よる歌の競演

比べ飲み比べ



堂々とした中山監督（高岡市役所）の司会



「明日も頑張れよ」（池田・右）「はい」（米倉）

ンは花盛り



日中サウスポー同士の食べ比べ、張青松（左）今泉



日中選手団に

日中友好食べ



「なかなかおいしいよ」李芳(左)、林詩銓



いかにも友好第一といった表情の銭谷、陳秀玉、米沢選手



12チャンネル藤吉アナウンサー(右)と談笑する梅野尾選手

レセプショ



RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Nakamura

The most popular sport in Japan, as you all know, is professional baseball and this year's season opened on April 5. Twelve teams, divided into the Central League and the Pacific League, will battle until October to become the No. 1 baseball team in Japan.

The games, of course, are broadcast nationally on television and there are even TV programs devoted entirely to news about professional baseball. In addition, seven different sports newspapers are published daily and they sell like hotcakes at the newsstands in the train stations every morning.

The popularity of badminton in Japan, therefore, is still very small compared to that of professional baseball. At any rate, in one year professional baseball has three hundred hours of air time on television while badminton may or may not have a total of ten hours.

We, who have been publishing this monthly magazine on badminton for over ten years, felt that something had to be done to increase the popularity of this game in Japan.

On April 1, therefore, we became independent of the Nippon Badminton Association and established Akaboshi Publications, Ltd. with Editor-in-Chief Akaboshi as president.

Our first order of business was an extensive campaign to increase circulation. In about one month, we had over five hundred new subscriptions and all of us on the editorial staff have plunged into our work with renewed enthusiasm.

Internationally, there is a split between the I.B.F. and the W. B. F. but we hope that they will become one again in the near future. There was a confrontation between the world's strongest, China and Indonesia, and Japan also invited the young players from China to play in friendship matches in various parts of our country from April to May.

Both the Chinese men and women, as expected, were magnificent, speedy, and powerful. If friendship matches like these could be held every year, we would be able to learn a lot from each other and improve our respective techniques.

Aside from the friendship matches with China, the spring intercollegiate league tournament was also held. Each college and university fought for the honor and glory of their school. This intercollegiate league tournament is perhaps the only one of its kind in the world. The cheering and applause resounding in the gymnasium is unbelievable and something we wish all of you could see.

The badminton season in Japan is until November. It may not be possible to do so every month, but we will try to keep you informed about what is happening here. If you have any news or information that you would like to share with us, please write to us at the following address. Looking forward to hearing from you!

Mrs. Carolyn Nakamura
c/o Akaboshi Publications, Ltd.
2-8-22-205 Taka-ban
Meguro-ku, Tokyo, Japan 152

の試合は、勝敗に直接的な意味はなく、そこで繰り広げられる技術を味わってもらうのが主旨である。

プロ野球でいうオープン戦も英語に直すと exhibition game となる。 〈Eの項・完〉

Fの項

fault フォルト。一般には過失、欠点、責任といったような意味だが、バドミントンでは、競技規則に定められた反則行為を総称している。テニスやテニス類似の競技（コートテニス、スカッシュ、ハイアライなど）ハンドボール等では、だいたい、サーブの失敗が対象だが、バドミントンでは、一般ストローク上の失敗、反則もフォルトという。

こころみに The Illustrated Handbook of Sports Terms（既出）を開くと、次のように説明している。

"An infringement of the laws. If made by the receiving side, it results in a point to the server; if made by the server, he loses the service."（競技規則の違反。レシーブ側が犯せば、サーバーの得点、サーバーが犯せば、サーブ権の喪失。）

サービスに関するフォルトは、①オーバー・ウエスト ②オーバー・ハンド ③ライン・クロス ④フットフォルト ⑤ボーク——の5種類。一般のフォルトは、①アウト ②ネット ③オーバー・ザ・ネット ④タッチ・ザ・ネット ⑤ドリブル ⑥ダブル・タッチ ⑦スリング ⑧タッチ・ザ・ボディ ⑨インターフェアー——の9種類がルール上、解説されている。ただし、これらの名称の中には、はたして英語で使われているかどうか不明なものもある。

☞ 各項の説明はそれぞれの項を参照のこと。

feint フェイント。サービスのさい、サーバーが犯す、レシーバーをだますような行為。その結果として起こるフォルト（前項参照）の呼び名がボークである。その〝だます〟が具体的にどういうことかは、競技規則の中の「解説」（Interpretations）が一例を挙げて次のように説明している。

"For example, a server who, after taken up his position to serve, delays hitting the shuttle for so long as to be unfair to the receiver, is guilty of such conduct."（たとえば、サーバーがサーブの構えをとってしまってから、実際にシャトルを打つまでに時間をかけすぎ、レシーバーに不利益を与えたような場合、サーバーはその行為に責任を負わされる。）

この、原文でいっている unfair（不公平な）は、サーバーがシャトルを打つのをあまりに遅らせると、、レシーバーは①サーバーが、もう打つだろう、もう打つだろうと、過度の緊張をしいられたり、逆に②打つ気がないのだろうと、ふと気を抜いたとたんに、打ち込まれてしまう——ようなことがあってはいけない、というような意味である。

フェイントは、ふつう英和辞典には「見せかけ。擬装、陽動作戦（軍事）、動作のまねをすること（運動用語）」などと出ている。この言葉は feign（フェイン）と同語源であり、フェインは「～のふりをする」という意味である。ラリー中のフェイントとしては、バレーボールのストローク（打法）の一種に使われているフェイント（強打と見せかけて軽打する）に、その特徴が現れている。

☞ balk（ボーク）

flat フラット。本来「平らな」という意味。ラケット競技では、打球がほぼ水平の軌道をえがいて（バドミントンならドライブのように）飛ぶこと。また、水平状態で飛ぶように、ラケット打面をコート面と垂直に保って打つ、その打ち方、打面の向きのこと。

flick service フリック・サービス。フリックは、ぱちんとはじき飛ばす、というような意味。フリック・サービスは、手首をよくきかせて、シャトルを勢いよく飛ばすサーブ、ということになる。ショート・サービスの一種で、主にダブルスに使われる。

ふつう、ショート・サービスでは、打球にさいしては、手首を使わない。そのため、構えの最初、手首をコック（うしろ、つまり手の甲側に曲げ）しておき、その状態を保ったまま、シャトルを打つ。フリック・サービスは、ふつうのショート・サービスが来ると思っているレシーバーの裏をかくのが主目的なので、ショート・サービスと同じように構えて、同じようにフォワード・スイングする。しかし、インパクト（ラケット面がシャトルに勢いよく当たる）の瞬間には、手首を急に曲げ戻して（これをスナップをきかせる、またはアンコックする、という）、その勢いでシャトルをはじき出す。レシーバーがあわててラケットを頭上に伸ばしても、届かぬくらいの高さで飛び、相手コートの奥のコーナーに入るようにねらうのがコツ。

（Fの項、つづく）

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Eの項　つづき

error　エラー。失策、失敗、過失などとも書くが、カナのままでもなんとなく意味が通じている。たとえば成美堂出版・スポーツ用語辞典（昭和54年10月）では、エラーについて、バドミントンの項目で『失敗。「ミス」ともいう』と説明してあるが、ではその失敗がどういうものであるか、具体的にいうとなると、なかなかやっかいである。

スポーツ用語のエラーは、野球、ビリヤード、ボウリングに関しては、それぞれ明確な定義づけがあるが、他の種目にはない。本欄で何度も引用している Webster's Sports Dictionary は、球技でのエラーに関する説明として「プレー中、競技者がボールをうまく返球できないこと」と述べている。

この説明はバドミントンにも応用できる。要するに、誤解を恐れずにいえば、相手のエース（ace、既出、その項参照）によらず、自己の責任においてラリーに負けたストロークの結末がエラーである。言葉を変えていえば、当然の要求にこたえられなかった技術上の失敗（とれるはずの球がとれなかったとか、打球がネットを越さなかった、など）がエラーである。

ミス（miss）はエラーの類語だが、前出の Webster's では取り上げていない。本欄の主旨は英語の勉強ではないから、詳細は省くが、英米で発行されている同義語辞典類でも、スポーツにおける両者の区別または定義については、ほとんどないようだ。

事実、一般用語としてのエラーとミスは特別な用法と熟語の場合を除き、どちらをどう使っても間違いではない、というのが、語学専門書に述べられていることである。

しかし、日本教職員バドミントン連盟審判部監修バドミントン・ハンドブック第Ⅰ編競技規則100問集（昭44）は問68の答の中で、ミスとエラーの区別、および、フォルトの関係について次のように説明をつけている。長いので主要部分だけ紹介すると――

『（前略）日本ではこの「ミス」と「エラー」が混用されていますから、まず、この点からハッキリする必要があります。ミス（miss）は「失策」とでもいうことで、プレーヤーの意図の通りにプレーできなかったことです。（中略）

エラー（error）は「過失」と訳しましょう。同じミスでも、そのミスが対手に有利な結果になると「エラー」なのです。例えば、ネット近くにいる対手の前にやさしい球を送ってしまうと、対手は、得たりとばかり打ちこんで、こちらがやられてしまいますね。この場合、そんなところへシャトルを上げてしまったことは「エラー」なのです。（中略）

さて、いよいよ「フォルト」ですが、フォルトはエラーの中でも、そのエラーの結果が競技規則のフォルトに該当するものだけをいいます。（後略）』

even court　イーブン・コート。この言葉を聞いたことのある読者はあまりいないだろう。しかし、英米では、サービスとくにダブルスのサービス順の説明をする時によく引用される。これは、バドミントン・コートの右側サービス・コートのことで、イーブンはここでは〝偶数〟の意味で使われている。スコアが0または偶数の時は、サーバーは必ず自分のコートの右側サービス・コートからサーブするために、こう呼ばれる。これを覚えておくと、サーブ順がこんがらかって間違ったりしない。

逆に、左側サービス・コートのことはオッド・コート（odd court）すなわち奇数コートと称される。テニスでは、ジュースになった時は右側コート、アドバンテージをとった時は左側コートから必ずサーブが行われるので、それぞれジュース・コート、アド・コートといっている。

event　イベント。一般的には行事、催し物、出来ごとなどの意。sports event といえば、スポーツ行事といったような意味になる。しかし、この言葉をスポーツ競技の用語で使うと、競技の中の個々の種目を指すことになる。たとえば「最初の種目は男子シングルス」（The first event of the tournament is men's singles）というふうにいう。

exhibition　エクスィビション。日本語ではエキジビションといいならわしている。一般用語では展示とか展覧会とかいう意味であり、ここから〝見せるもの〟で、いわゆる模範試合、演技会などとしてスポーツで使われるようになった。この種

中国”が躍動

4年ぶりに日中交流が復活しました。

第6回目中バドミントン競技は、昭和52年から中断されていましたが、4月26日、日中交流ゆかりの地〝名古屋〟を再会の場としてスタート、全国六ヵ所を転戦して、新しい中国の一端を披露してくれました。

若い中国を代表するメンバーは、李甦光団長、周修梨副団長、林建成コーチ、林豊玉コーチ、劉屯通訳をはじめとする男女各五名の選手たち総勢十五名。その中には、前回来日した男子の林詩銓、女子の李芳の顔も見えましたが、選手の平均年齢は21歳という若さ、いずれもこれからの中国を担う若手だけに、前陣速攻の迫力あるプレーが展開されました。

編集上の都合のため、まずは前半戦、名古屋、高岡、新潟大会の模様をお知らせいたします。

○名古屋大会（4月26日）

中国5（男子3—0 女子2—1）1日本

▼第1試合・女子シングルス

徐　蓉2（11—5 11—4）0近　藤

所要時間・第1ゲーム10分 第2ゲーム15分

▼第2試合・女子ダブルス

陳秀玉 0（9—5 15—15）2 徳　田
謝楽平　　　　　　　　米　倉

所要時間・第1ゲーム16分 第2ゲーム15分

▼第3試合・男子ダブルス

李志鋒 2（15—9 15—8）1 飯　野
張青松　　　　　　　　土　田

所要時間・第1ゲーム15分 第2ゲーム25分

（5分休憩）第3ゲーム10分

▼第4試合・男子シングルス

林義雄2（15—9 7—15 15—11）1銭　谷

所要時間・第1ゲーム16分 第2ゲーム16分

（5分休憩）第3ゲーム25分

▼第5試合・男子ダブルス

何連平 2（15—2 15—11）0 池　田
林詩銓　　　　　　　　尾　崎

所要時間・第1ゲーム12分 第2ゲーム17分

▼第6試合・女子シングルス

宋幻萍2（11—1 12—10）1東海林

所要時間・第1ゲーム7分 第2ゲーム14分

日中友好再開のトップを切ったのは、ともに力とスピードを武器とする次代のエース候補の対戦、徐蓉対近藤。

劉霞、張愛玲の飛車角抜きの中国女子なら、ユーバー杯保持国の日本にやや分があるのではないかと思われた。

試合が開始されると、徐蓉は力いっぱいのスマッシュを放って文字通り〝攻撃〟でねじ伏せようとする構えを見せるが、スマッシュ後の動きが鈍く、近藤のネット際へのリターンに追いつかず苦しいスタート。

これは「近藤勝てるぞ」の印象を受けた。

しかし、それも近藤が3—0、5—1とリードするまでの束の間だった。

次第に動きの速くなった徐蓉は、ネット前へのダッシュもスムーズになって、それまでの動きが単に体が温まっていなかったからといわんばかりとなった。

本来のプレーを取り戻すと徐蓉は強い。

3—5から連続4ポイントを挙げてあっさり逆転すると、試合の大勢はほぼ決してしまった感があった。

チャンスとみればスマッシュ、それも体全体を十分に使った豪快なスマッシュ、返球されると待ってましたとばかりにネット前へついて決定打を与えるプレーはまさに〝前陣速攻〟

一気に攻め切れないと見れば、再びドリブンクリアーと速いカットを駆使して揺さぶり、体勢を崩しにかかる様は、ど涛のような迫力があった。

日本ではというより、世界でも有数の攻撃力を誇る近藤が、攻められっぱなしというのだから恐しいことだ。

加えて、手首の強さ、クリアー力の力強さは男子並み。

近藤が、必死に突破口を開こうと、ドリブンクリアーで押し込んでも、いとも簡単に押し戻して攻撃の糸口を与えることがなかった。

兎に角、第1戦の力対力の対戦は、中国に軍配を上げざるを得ない。

しかし、シングルスでは兜を脱いだ日本だったが、ダブルスには国際経験の豊かさを生かした落ち着いた試合運びを披露してくれた。

中国ペアの陳・謝組は、当れば破壊力はあるが、その替り凡ミスも多い荒削りなコンビ。

中堅選手の陳と、若手の謝はこの来日で初コンビということもあってか、持てる力を十分に出せないといった印象がうかが

●第6回日中友好バドミントン

4年ぶり“若い

えた。

徳田・米倉組にしてみれば、自滅してくれる相手は願ったり叶ったりだ。

ゲーム開始から常にセーフティリードを保って、余裕ある顔つきで相手をよく見つめながらのプレー。第1ゲームは米倉の前衛が冴え、第2ゲームは徳田の粘りと後衛からの攻撃が噛み合って、中国ペアにつけ入る隙を与えなかった。

女子のダブルスは、まだまだ未完を思わせる中国だが、男子ダブルスは荒削りながらも、勝負にも負けないしたたかさを示した。

国際的には無名の李志鋒・張青松組は、強引とも思える前衛のストップにミスを続発させて第1ゲームを失ったが、第2ゲームから好ラリーの応酬に持ち込み四千五百の観衆を沸かせてくれた。

飯野・土田組は、第2ゲーム8―4とリードしたまでは、両者の攻撃がうまく回転して上々のムードだったが、そこから一気に8―12と逆転され、アセリとともに集中力を欠く妙な試合ぶり。

第2ゲームは、13オールのセッティングになり、1オール、2オール、3オールともつれにもつれいったんは4―3とマッチポイントを握ったが、中国ペアの渋太さに四苦八苦、このゲームで決着をつけられないツメの甘さを出して、何時もの彼らしさがなかった。

肝心のファイナルゲームでは、0―8でチェンジエンドする羽目で、結局この差を詰めることができずに敗れ去った。

あと一歩の銭谷

名古屋大会最高の激戦となったのは、弱冠十九歳の林義雄対日本チャンピオン銭谷の男子シングルス。

林は、歳に似合わず直線的に打って出るだけではなく、クロスネットを多用するなどなかなかのテクニシャンぶりを発揮、銭谷やや面喰う格好で第1ゲームは林が先取すると、銭谷も黙ってはいられない。

第2ゲームに入ると、銭谷は第1ゲーム打ち急いだ分ジックリ持久戦に持ち込む作戦に切り換えた。

これが功を奏したのか、逆に今度は林が打ち急いで、無理な体勢から攻撃を仕掛けミスが目立つようになった。

ペースを取り戻した銭谷は、前半こそ競り合ったが一本一本を積み上げるように加点、十分の期待を抱かせて第3ゲームへ望みを継いだ。

ファイナルゲームは、まず林が歯切れの良い攻撃で先手を取ったが、銭谷もスマッシュで対抗して追い上げ8オールの火の出るような熱戦となった。

しかし、銭谷はこの勝負どころでネットプレーが浮き気味、林はこれを見逃がさずに突いて13―8とラッシュに次ぐラッシュでもぎ取り、銭谷の追撃も11点で押さえて長い試合に終止符を打った。

前回の来日ではシングルスで活躍した林詩銓は、今度は何連平と組んでダブルスに出場、落ち着いたリードオフマンの役目を果たし、見事なダブルスを見せてくれた。

積極的に前へ前へと出る何連平を〝動〟とするなら、林詩銓は〝静〟。

何を自由に泳がせて流れを作り、林が後始末をするような派手さこそないが、いぶし銀のようなプレーで、攻守ともに李志鋒・張青松組を上回る迫力があった。

池田・尾崎組も、この日は集中力散漫な様子で、得意の競り合いに持ち込むことができず、持ち味を発揮することができなかった。

徐蓉に次いでスピードのシングルスを見せたのが、宋幼萍。

東海林を相手に、速いクリアー、速いカットで体勢を崩し、スマッシュを決めるパターンで第1ゲームは僅か7分という試合時間で終了した。

しかし、東海林も日本の成長度ナンバーワン。

第2ゲームになると、宋を対角線に走らせる巧妙な配球に活路を見い出し、互角のラリーを繰り広げた。

攻め急ぐ宋幼萍にも助けられて、東海林は先に10―8とゲームポイントを取る健闘を示したが、大事な場面でコースを狙い過ぎてサイドを割ったり、セレクトミスを犯して、一矢を報いることができなかった。

ファイナルゲームに持ち込めば、もっと違った意味の東海林の攻めのバドミントンを発揮することができたのだろうが、少し弱気になった東海林ではあった。

米倉組が一矢

○高岡大会（4月27日）

中国 4（男子2―1 女子2―1）2 日本

▼第1試合・男子ダブルス

林詩銓 何連平 2（15―8 15―4）0 今泉 米沢沢

所要時間・第1ゲーム20分 第2ゲーム9分

▼第2試合・女子シングルス

李芳 2（3―11 11―6 11―3）1 近藤

所要時間・第1ゲーム10分 第2ゲーム11分

（5分休憩）第3ゲーム11分

▼第3試合・男子シングルス

林義雄 1（15―12 12―15 17―18）2 銭谷

所要時間・第1ゲーム18分 第2ゲーム15分

（5分休憩）第3ゲーム28分

▼第4試合・女子シングルス

徐蓉 2（11―4 11―5）0 北田

所要時間・第1ゲーム8分 第2ゲーム15分

▼第5試合・女子ダブルス

陳秀玉 謝楽平 2（6―15 10―5）0 徳田 米倉

所要時間・第1ゲーム15分 第2ゲーム24分

▼6試合・男子ダブルス

李志鋒 張青松 2（12―15 15―9 15―8）1 池田 尾崎

所要時間・第1ゲーム23分 第2ゲーム25分

（5分休憩）第3ゲーム19分

先の日本リーグ同様、大観衆で埋まった高岡市民体育館。

開場三十分前には、満開の桜の下に行列ができて、いかにも久し振りの日中親善が待ち遠しかったといいたげに、会場はまたたく間に満員の観衆で膨れ上がった。

そして第1試合は、地元・高岡の期待を一身に背負って出場の今泉・米沢組と、中国のエース的存在、林詩銓・何連平組の対戦で幕が切って落とされた。

パワーとスピードではかなわないとばかりに、今泉・米沢組はハーフ・スピードのドライブで攻撃の機をうかがおうとするが、今泉の老練さと米沢の渋太さも序盤までで長続きはしなかった。

時おり今泉組も、往年を思わせるようなプレーで観衆を喜ばせたが、地元開催で雑事の準備に追われて練習もままならない状態と聞き及んではいたしかたないところか。

銭谷、気力の大逆転

この李芳の一戦に優るとも劣らない価値があったのは、このところ話題に乏しかった日本のチャンピオン銭谷。

前日の敗戦をクスリにしたのか、序盤戦からガッチリと林義雄をマーク、コースの甘さと荒さの目立つ林にピッタリ食いついていった。

案の定、林は前半をリードしたが、第2ゲームに入るとが然とスパート。

近藤に打たせないようなプレースメントで丁寧な試合運び、またたく間に9―1と第1ゲームとはまったく逆の試合展開となった。

そして、ファイナルゲームもあせる近藤のミスを誘って一気に10―1と突き放し、風格ある試合運びを披露した。

年齢はまだ二十三歳だが、中国では数少ない国際経験豊富な選手、力で対抗できないときは頭脳プレーでと切り換えの早さはさすがであった。

前日、徐蓉にいいところなく敗れた近藤だったが、三度目の来日になる中堅選手・李芳には心機一転、積極果敢なアタックを試みていった。

ゲーム開始早々から、ジャンプスマッシュを惜しげもなく繰り出して必勝の構え、サービスもショートサービスを巧みに織り混ぜる気の配りようで、フェイントをかけるなど、上々の滑り出しをみせた。

しかし、さすがは李芳。

満を持していたのか、手の内を読んでいたのか、第1ゲームはまったくいいところなく落として先手を取ったが、9―7からセレクトミスなど凡ミスを重ねて自滅、銭谷の思うツボへはまっていった。

第2ゲームは、林が奮起してスマッシュに冴えをみせて、ファイナルゲームに持ち込んだが、この日の銭谷は気迫が違っていた。

第3ゲーム、銭谷は打つべき

●第6回日中友好バドミントン

男子 銭谷、女子 徳田・

ところは打ち、守るところは徹底的に守る精神的な落ち着きを出し、6—4、11—8、13—11とマイペース。

いったんは13オールと追いつかれ、波に乗った林に4—0とマッチポイントを握られたが、少しもあわてることなく挽回、場内の興奮の中、2度目のマッチポイントで見事名古屋大会の雪辱を果たした。

以前の銭谷は、攻撃して初めてその持ち味を発揮してきたが、最近は富に粘りを増しており、とくにこの日は林の速い攻めを再三のファインプレーで切り抜け、守りの充実が著しいことを示し、銭谷にとってささやかれていた〝プレーの転換期〟がいよいよ本物になってきたようだ。

日本女子の〝ホープ中のホープ〟北田が登場、来日メンバーの中で実力ナンバーワンと目される徐蓉と対戦した。

北田は、第1ゲームカチカチに固くなって自由に動けない様子だったが、第2ゲーム中盤から声が出るようになり、1—5から4—6まで追い上げる健闘ぶりで、評判にたがわぬ大器の片鱗をみせて盛大な拍手を浴びた。

まだまだトッププレーヤーとの手合わせも少なく、国際経験も浅い北田にしてみれば、持ち味を百パーセント出し切る状態にはなかったかもしれないが、徐蓉との対戦はこの上ない〝学習〟の場になったはず、今後を大いに期待したいものだ。

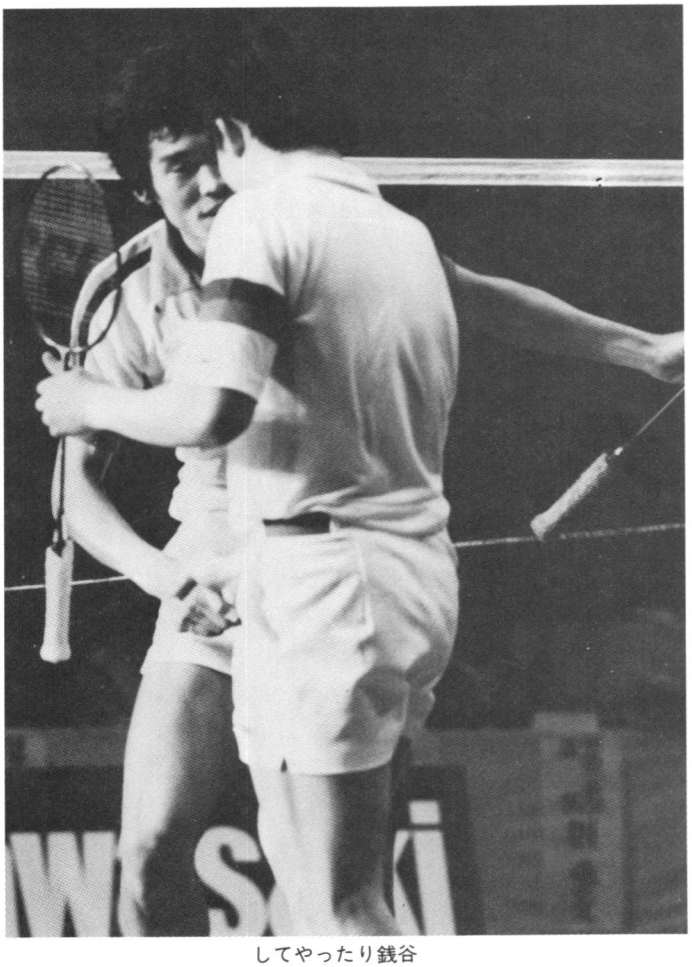
これまた前日の名古屋大会と同じ顔合わせとなった徳田・米倉対陳・謝組は、第2ゲームに中国ペアがやや抵抗したものの、まずは日本ペアの順当勝ち。

しかし、中国側も、前日に引続いて徳田・米倉組との対戦を強く要望したあたり意欲満々、なんとか日本ペアから少しでも吸収しようという姿勢がありありとうかがえた。

男子ダブルスの池田・尾崎組は、前日の飯野・土田組同様あと一歩まで詰め寄ったが惜しい星を落とした。

第1ゲームは、池田の好レシーブと尾崎の強打がうまくミックスされ緻密なバドミントンを繰り広げたが、第2ゲーム以降は中国ペアのガムシャラな攻撃に押し切られた格好となった。

「オールジャパン以来、勝負に対する執着心が薄れてきているようだ」と尾崎選手もゲームを振り返ったが、集中力が持続してこそ本来の味の出るコンビ、早く精神的な安定を取り戻して欲しいものだ。



してやったり銭谷

圧巻の“前陣速攻”

ケイレンに泣く長谷川

○新潟大会（4月29日）
中国6（男子3―0 女子3―0）0日本

▼第1試合・女子シングルス
徐　蓉2（11―3 11―4）0米　倉
所要時間・第1ゲーム14分
第2ゲーム12分

▼第2試合・男子ダブルス
何連平 林詩銓2（15―3 15―1）0飯野 土田
所要時間・第1ゲーム8分
第2ゲーム7分

▼第3試合・女子ダブルス
李　芳 宋幼萍2（15―10 15―13）0関根 大塚
所要時間・第1ゲーム21分
第2ゲーム24分

▼第4試合・女子ダブルス
陳秀玉 謝楽平2（15―2 15―5）0近藤 高田
所要時間・第1ゲーム7分
第2ゲーム10分

▼第5試合・男子シングルス
張青松2（15―6 13―15 15―10）1長谷川
所要時間・第1ゲーム12分
第2ゲーム17分
（5分休憩）第3ゲーム17分

▼第6試合・男子シングルス
林義雄2（15―6 15―7）0辻
所要時間・第1ゲーム11分
第2ゲーム14分

中国恐るべし。

来日三戦目、ようやく日本の地にも馴れてきたのか、新潟大会は中国パワーが大爆発した。

そのトップを切ったのが徐蓉。

日本からは日本チャンピオンになって、今や脂の乗り切る米倉が立ち向ったが、絶好調を誇る米倉でさえ手も足も出ない完敗であった。

ここで経過を辿ることがはばかられるほどだ。

兎に角、スピードで日本を制し、世界をも手中にしようとする米倉の、一枚上のスピードとパワーで攻めまくってくるのである。

ヘアピンにスピンをかけることのできるスピードとテクニックは、今さらいうまでもないが、それよりもっと驚くべきことはクリアーの速さである。

クリアーのスピードに一目瞭然の違いがあれば、勝負の行方は決したも同然。

米倉が返球するのがやっとといった場面が再三再四、フォアサイドを攻められクリアーにノータッチを喫することもしばしばだった。

体全体を使った歯切れの良いフォームから、力一杯叩きつけるようなクリアー、その上インパクトの瞬間に手首の操作だけで自由自在にカットを打つテクニックがあるのだから、対戦者にしてみれば始末に悪い。

そして、スピードとパワーを誇示したのは徐蓉だけではなかった。

タッチの速さでは世界に互して一歩もひけをとらない飯野・土田組が、これもあっという間の完敗を喫したのだ。

卓球の〝前陣速攻〟〝三球目攻撃〟をそのまま採り入れたような林詩銓・何連平組。

〝元祖〟変化球サービスで飯野組の出足を止め、上げさせて一発で仕留める戦法に、ラリーはまったく続かず、地元出身のコンビに期待した観衆も、出るのはため息ばかり。

サービスの威力、スマッシュの素晴らしさだけがやけに光って見えた。

その問題のサービスであるがシャトルを逆さに持って斜めにこすり上げるいわゆる〝スピンサービス〟と、シャトルを横に持って構える安全性の高いものをバックハンドから、またより安全性を求める場合はフォアハンドからと、三種類を状況に応じて使い分ける質の高さと、緻密さ。

うっかりプッシュできない変化サービスに、飯野・土田組はすっかりペースを狂わされてしまった。

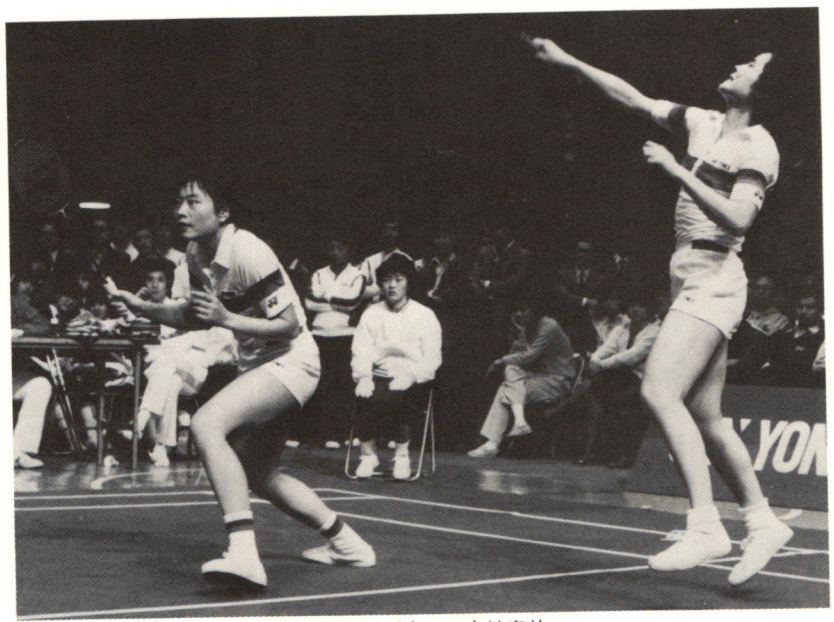
サービスの威力を見せつけたのは、男子の林・何組だけではない。

女子ダブルスでも、関根・大塚の粘りに手を焼いていた李・宋組は、第2ゲームの9―10から李がスピンサービスを操り出してあっさり逆転、勝負どころでの武器になっていた。

関根・大塚組は、ラリーは互角の試合内容で、持ち味を充分発揮したが、肝心なところで李の掛け引きにしてやられてしまった。

●第6回日中友好バドミントン

中国実力発揮、



李芳の老巧さが光る。左は宋幼

近藤・高田組は、中国ペアの攻撃をまともに浴びるまずい展開、終始押されっぱなしで攻めのパターンを作ることができず自滅。

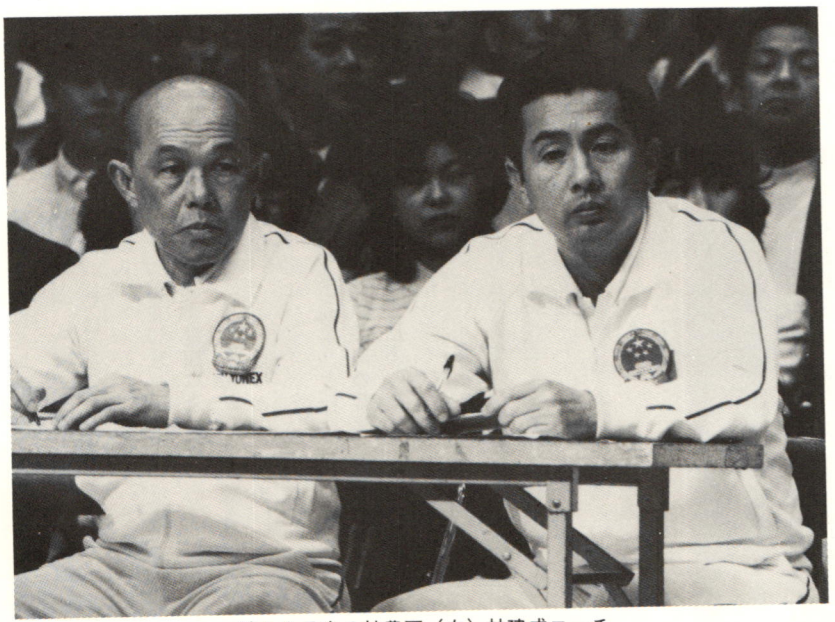
惜しかったのが長谷川。第2ゲームからスマッシュが当たり出し、ジャンプスマッシュを決めるなど積極果敢に攻めて、ファイナルゲームに持ち込んだ。

第3ゲームも、中盤にペースをつかみ10―7とし、勝利を握るかと思われたが、10オールの佳境にさしかかったところで、足のケイレンが長谷川を襲って、せっかくのチャンスをむざむざ見逃がす結果になった。

ジンマ疹が出て、最悪のコンディションだったことを考えれば大善戦、しかし怪我や病気がプレーヤーにとって目に見えない最大の敵であることを、新ためて思い知らせてくれた一戦ではあった。

辻も、林義雄のスピードに完敗。

期待された若手男子の起用は、結果こそ無惨な敗戦となったが、この貴重な体験を今後のためジックリと噛みしめてもらいたいものだ。



試合を見守る林豊玉（左）林建成コーチ

われらのクラブ

日本一の“若さ”が売り物

渋谷・アンクル

こんにちは。

日本のバドミントンプレーヤの皆様お元気ですか。こちらは、東京の渋谷を中心に活動しております。私たち「アンクル」っていうバドミントンが好きで好きで……という人ばかりの集まりです。

ちょっと変わっている名前でしょう。私たちの長が〝親次さん〟(勝浦親次・ラケットショップ元町勤務、本名はシンジだけどオヤジと読む)といいまして、クラブの名前も初めは「オヤジ会」にしようといっていたんです。でもそれでは何かちょっとねェ、とクレームがつきまして、まあ英語にしてみれば格好がつくんじゃないかということで、結局「アンクル」って落ち着きました。厳しくいうと少しニュアンスは違うんですけど、そこら辺は〝よくわかんなァーい〟ととぼける訳でして……、でもなかなか響きがいいと思いませんか。

会員はただ今四十名です。「アンクル」っていっても、皆んな若いんです。下は高校1年生から、上は○○さんのX歳まで、平均年齢は大目に考えても十九歳くらいかな。

私たちの主な練習場所は大田区です。田園調布からちょっとの所、そして大体土曜日か日曜の夜に、どこからともなくゴソゴソと集まってくるんです。

皆んなそれぞれの学校の練習もあるので、四十名全員が集まることはめったになくて、いつも約二十名強という感じです。

クラブが誕生したのは、昭和五十三年十月でした。その頃は杉並区の方でよく練習していたんですよ。練習もきちんとしていました。ノックなんかもよくやりました。

初めの頃は、部としての運営も上手くいってたんです。でも半年くらいしてから、中だるみの状態に入ってしまいました。「アンクル」に入っているんだがいないんだかよく判らない〝幽霊部員〟が出はじめたんです。

練習も、体育館に来て打つだけになってしまい……、そんな時が何回か続き、これじゃいけない、ということになりました。それで一周年記念パーティをして集まり、もう少しガンバッテみようということになりましたが、はっきりいって初めだけ。後はまた元のもくあみになってしまいましたが、でも男子の若衆が踏ん張ってくださり、現在はもう〝ザ・ベスト〟という感じです。

会計も若い者でやっていますし、「自分たちの手で」ということを大切にしています。

といっても、下のずーっと下の方の私たちなどは、とにかく今までくっついてきただけという感じです。いつもおぶさってばかりだったので、これを機に少しガンバラナクッチ



豚もおだてりゃ木にのぼる?

ャー。

今の練習は、まずアンクル体操をします。これが日本放送協会の朝の体操なんて比べものにならないくらいに、おナウなんです。えーっとそれからランニング、これは黙々と皆んなで走るんです。その後、基礎打ちをします。

大体、週に一、二度の練習なので、第一、二週は基本練習で、第三、四週はゲーム練習ということに一応なっています。でも高校生がとにかく多いので、試合がある時は臨機応変でやるんです。

メンバーの面々は、個性の固まりみたいな人ばかりです。本当に面白いんですからあ。

先日、三月の終わりのある日に、皆んなで高尾山に遠足に行きました。時々はこのような行事もする予定です。

発足して、一年半とちょっとが過ぎましたいろいろなことがあって、お話し切れませんが、皆んなで話し合ってよりよいクラブ作りをと考えています。

いろんな所に沢山のクラブがあると思うんですが、私たちほど〝若い〟のはなかなか珍らしいじゃないでしょうか。その若さゆえに問題もあると思うんですよね。

それらを一つ一つ、一生懸命に皆んなで解決してゆくのも「アンクル」の良さかも知れません。

私たちが本当の〝アンクル〟になっても、ずうーっと仲間でいたいなあ、なんて思っています。

〈文・正木京子・16歳（学習院高）〉



仲が良いほどケンカするという

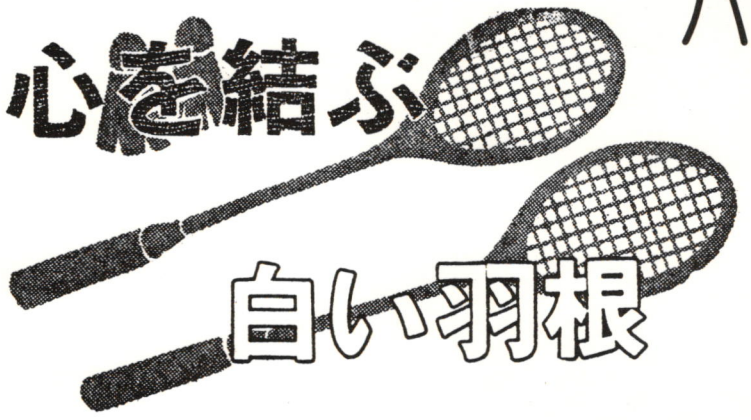


全員集合パートI



全員集合パートII

笠岡諸島の白石島と言えば、瀬戸内海国立公園に指定されている観光の島。笠岡港から高速艇でわずか二十五分だが、へき地指定を受けた〝過疎の島〟でもある。この白石が、中学生らの活躍が起爆剤となりこの数年、活気にあふれた〝バドミントンの島〟に生まれ変わった。笠岡市立白石小教諭宮本弘和さんと部員らの地道な活動が、島民らを動かし、島ぐるみでシャトル（羽根）を追う〝するスポーツ〟へと発展したわけだ。五十一年からは部員らの父母を中心とした婦人会、翌年からは漁業や石材業などに従事する地元青年たちも参加して同好会が生まれ、今、白石島はバドミントンを通じて、体力づくり、新しいコミュニティーづくりが浸透してきている。



バドミントンの白石島

〈山陽新聞から〉

学校行事から浸透

白石島とバドミントンとの結びつきは四十五年ごろにさかのぼる。四十三年四月から着任した宮本さんが「娯楽の少ない島で、子供たちが体を動かしながら楽しめるスポーツを」と始めたのがきっかけだった。白石島の産業は、瀬戸内の美しい展望と弘法大師ゆかりの開龍寺を中心とした観光、それに漁業と石材業など。共働きが大半のため放課後の子供たちは、いわゆる〝かぎっ子〟—。

「けがなどのない遊びをさせよう」という宮本さんの生活指導面からの配慮が、バドミントンに結びついたという。だから最初はまったくの遊び。「私自身がバドミントン、いや、スポーツには縁遠い人間だった。なにしろ始めたころはルールもろくに知らなかった。ただ子供らと一緒に遊んでやることだけで…」と当時を懐かしそうに話す宮本さん。

しかし、四十八年夏、白石中に同好会を発足させてからは、子供たちがそろそろ本気になりかけた。「もっと強くなりたい」という生徒たちの願いもあり、笠岡市の金浦中、倉敷市の東、西中など岡山県下のトップレベル・チームの胸を借りたのもこのころ。そして翌年の岡山県中学総体初参加で、女子チームがベスト4入りした。これをきっかけに、五十年四月、同好会から部に昇格、部員たちの成長も目立ち始めたが、その裏には、多くのハンディをはねのけた工夫した自主的な練習があった。

平日は放課後約二時間、土、日曜日は約三時間体育館のない同校では、シングルスのコートがやっと二面とれる縦十二㍍、横十八㍍の広さのへき地集会場を利用した。バドミントンは空間をいかにうまく使うかで勝負が決まる。しかし集会場は天井が四㍍しかないため、その練習もままならなかった。さらに同校は全生徒が四十七人。このため、部員も毎年、男女合わせて十五人前後で、練習相手が限られた。こうしたハンディを克服した練習内容はすばらしい。島の子供たちは決して大柄ではないが、体力はある。これにみがきをかけようと続けているのが足腰、スタミナづくりのランニング。学校を出発、終点に、島内の起伏に富んだ野道、路地などを回る一周約七百㍍のコースを設け、部員らは年間通じて、これを三周してから練習コートに入る。次に宮本さんがいなく

ても、部員たちは宮本さんが練習内容を入れたテープレコーダーを聞きながら練習する。

これらの汗の結晶は―。五十一年夏女子部員二人が岡山県代表に選ばれ、仙台市であった全国大会に出場したのをきっかけに、その年の秋から本年度まで、女子チームが、岡山県中学総体史上初の四連覇。また昨夏の神戸市での全国大会でも、女子チームがベスト8入りするなど全国レベルに達した。男子もこれにライバル意識を燃やしてがんばり、五十二年には岡山県大会の個人で優勝、全国大会の代表にも選ばれるまでになった。「島の子特有のすなおさ、まじめさがここまでにした」と宮本さん。

この中学生に刺激されたかのように、五十一年ごろからは、部員の父母たちを中心にした婦人層にも広まった。翌年からは同校のOBで、地元に残って漁業や石材業などに働いている青年や娘さんらも加わり「白石島バドミントン同好会」が結成された。十六歳以上の人ならだれでも入会でき、会員は男性十一人、女性十七人の計二十八人。年代は二十歳前半から四十歳後半と広く、娯楽の少ない島だけに年々、加入者も増えている。

副会長で主婦の山川節子さんは「汗をかくのがたまらない。それにゲームの合間、若い人と話すのが今までと違った親近感連帯感を作り出してくれる」という。

また、同島は四十八年ごろ過疎がピークに達し、青年団が解団したが、このバドミントン同好会に集まっている若い人を中心に、再び機運が盛り上がり、さる一日「白石島青年会」が組織された。同会の会長さんで同好会の会員でもある石材業原田金吉さん（二七）は「今まではみんなばらばらだったが、いまでは四季おりおりの行事などにも力を合わせてできるバドミントンが僕たちを結びつけてくれた」と話す。加えて、公民館や学校が実施する最近のスポーツ行事にも年間数回、バドミントンを取り入れ、親子で楽しむなど、親子の対話づくりにも役立っている。

岡山県バドミントン協会副会長で、昨年まで同会会理事長を務めた山陽女高教頭の毛利清志さん（五二）は「学校内でのスポーツが、地域ぐるみの社会体育にまでなるなんてすばらしいことだ。遊びとしてのバドミントンをうまく使っているのが成功した原因だと思う」と絶賛している。

県中学総体Ｖ４の女子チーム

青年、主婦らも同好会結成



新入部員必読の書!!

小島一平著 ガッツ!!バドミントン

――限りなき挑戦

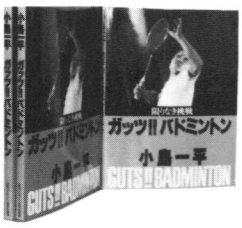
第11回トマス・カップ・インターゾーンが行なわれたジャカルタでのこと。現地のファンは口々に「イッペイ・コジマはどうして来ないのか」「彼は元気か」「イッペイ・コジマのプレーは今でもよく覚えているよ」等々、われわれに質問を浴びせてきた。

それほど小島一平の名前は世界的に知られている。

本書は、その小島一平のすべてをさらけ出したものである。体当たり半生記、実戦アドバイス、わがライバルたち、の三部から構成され、巻末には主要大会記録・ルールも収録されている。

新入部員の皆さんにとっては、今すぐ役立つものであり、インターハイ、全国中学等の大会を控えて、ぜひお読みいただきたい書である。

ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙の「その他」の欄に「ガッツ・バドミントン」と明記のうえ、定価2000円と送料240円を添えて、お近くの郵便局からお申し込みください。バドミントン界編集部



◆日本図書館協会選定図書

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス

友枝康子

ふだんはあまり紹介されることのない東欧諸国の話題を今月は特集します。

とくにソ連は選手層も厚く、モスクワ・オリンピック終了後は、さらにバドミントンの強化も図るのではないかと思われます。

（いずれもIBF機関誌3月号に掲載されたものです）

進境いちじるしいソ連

1979年に行われたヨーロッパの各競技会で、ソビエトはさらにヨーロッパでのトップに向けての進歩の跡を示した。ヨーロッパ・ジュニア選手権ではアイルランド、オランダ、ノルウェー、オーストリアを降し、プレーオフではスコットランドを4―1と破った。

ヘルベチア杯トーナメントでは、予選でトップに立ち、決勝ラウンドではウェールズ、ノルウェー、アイルランドを降した。

ソビエトは、程度の高い若いプレーヤーを多くかかえており、国際的な経験を積めば、近い将来、一人あるいは何人かが、ヨーロッパでのベストに顔を出すかもしれない。

1979年のシングルスの国内チャンピオンは、22歳のヴャチェスロー・シューキンとアラ・プローダン。2位はヴィクトル・シャヴァチュコとナタリア・マクサコワだった。

招待試合はたいてい毎年開かれる。1979年の3月の大会にはタイ、デンマーク、東ドイツが参加した。

ポーランド国際選手権大会

11月末でコウノで開かれた、第5回トーナメントでは、4種目を東ドイツ、1種目をスウェーデンが獲得した。カッセンスは女子シングルスのタイトルを守り、女子ダブルスではアンジェラ・ミカロウスキーと、混合ダブルスでは、男子シングルス優勝のエドガー・ミカロウスキーと組んだ。

23人の外国人選手がオーストリア、チェコスロバキア、東ドイツ、ハンガリー、スウェーデンが参加。会期が変更にならなければもっと強力な参加が得られたはずだった。

ポーランド・バドミントン協会杯国際競技会と名称変更のあったこの大会はチームではなく個人によって争われる。カトヴィツェ市に近い会場は、ホテルその他の設備の整った近代的なスポーツ・センターである。

ハンガリー国際選手権大会

第4回大会は9か国からの参加者を得て11月初めの週末、ネップ・スタジオンで開かれた。イギリスも初めて、小規模ながら強力なチームを派遣、3種目を制した。

ヨーロッパ・ジュニア選手権2位のニック・イエーツは抜群の集中力で強豪を押さえて決勝に進み、西ドイツのジュニア、T・クンストレルを降してインググランドに初のトロフィをもたらした。つづいてはポーラ・キルビントンが女子シングルスでオランダのハンク・デ・コルトを降して優勝、イエーツとダンカン・ブリッジは男子ダブルスでイングランド3つ目のカップを手にした。

すばらしい東ドイツの女子ダブルスのカッセン＝ミカロウスキー組は、快勝のキルビントン＝シンプソン組相手に第2セットで長引いたほかは、楽に勝ち進んだ。

会場の最高級の設備としては、ポータブル・コートや、進行中の試合のスコアを示すばかりでなく、どちらがサービス側かなども表示される電気式のスコアボードなどがあり、大会の成功の一助となっている。

チェコスロバキアの実り多きシーズン

1974年ウィーンでのヨーロッパ選手権以来、チェコスロバキアはヨーロッパの競技会へはわずかに参加リストから除外されない程度の名目的な参加をつづけていた。しかし、昨年はヨーロッパ・ジュニア選手権をはじめとしてEBUの全競技会への参加と積極的な変化を見せたばかりでなく、チェコスロバキア国際選手権大会には、魅力的な参加者を得て、テレビ放映を通じて、このスポーツの一般への普及がはかられることになった。

男女各2名という最少チームを送ったヨーロッパ・ジュニア選手権での女子の大活躍、ヘルベチア杯ではウェールズに敗れるまで楽勝をつづけ、ヨーロッパ杯では、スポージョ・プラハ・チームは東欧諸国唯一の参加して健闘、いずれも成功といえる。

10月13日―14日、プラハで開催された第8回チェコスロバキア国際選手権大会では、強力な9名のデンマーク・チームが4つのタイトルをさらった。大会にはヨーロッパの主要5か国を含めて12か国の参加が得られた。

この大会の着実な発展がヨーロッパで秋に開かれる最も魅力的な競技会、そして東欧諸国における重要な競技会に育て上げ、今までの例にない新聞、テレビなどの報道へとつながったのであろう。

東ドイツにおける国際トーナメント

第7回ヴェルナー・ゼーレンビンダー記念競技会は、9月末ブルガリア、チェコスロバキア、東ドイツ、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア、ソ連が参加してグライスヴォルトで開かれた。ルーマニアは国際トーナメント初登場だった。名誉はソ連と地元東独プレーヤーでわけ合う結果となった。ずっと女王の座を占めていたモニカ・カッセンスは怪我で欠場し、ナタリア、マクサコワの優勝となった。ご当地グライスウォルトのバドミントン一族のミカロウスキー家からは、男子シングルスのエドガー、混合ダブルスのエルフードとアンジェラがいずれも栄冠を手にした。

先月の特集〝中国対インドネシア友好大会〟に関連して、シンガポールスポーツ評議会機関誌に、中国の韓健、劉霞両選手に関する記事が掲載されましたので、ご紹介します。

ハン・ジアン リム・スイ・キンを降す

彼がはじめて国際試合で注目されたのは、1978年、バンコクでの第8回アジア競技大会だった。この大会で彼は決勝でインドネシアのリム・スイ・キンに敗れた。

1年後、第4回中国全国競技会で決勝に進出、ヤン・ユージァンに敗れた。この23歳の中国のスターが3ゲームの試合でインドネシアの王者リム・スイ・キンを降したことは士気を大いにあおった。

勝利のあと、ハン・ジァンは通訳を通して、全英チャンピオンを降した作戦を語ってくれた。

「ぼくはこの試合を長い間待っていたんです。1978年にアジア競技大会でリムに負けてからずっと、再び試合をする日に備えてました」

「リムにはバンコクで二度会って、彼の長所や弱点に気をつけて見ていました。彼はスマッシュにとても自信を持っていいます。ぼくが彼のジャンピング・スマッシュを返すたびに、しまったという様子だったでしょう。ぼくはこの試合の準備に3か月かけました」

「今晩、ぼくは彼よりずっと体調がよかった。それが影響したんですよ。彼がかなり疲れた時、ことに第3セットで、彼の判断に影響したんです」

「でも、こういうじゃありませんか。ツバメが一羽飛んできたって、それで夏になったってわけじゃない、って。また試合をすることがあるでしょうけれどこの次は彼はもっとよく準備ができてるでしょうね。今夜ぼくは彼を負かしたといっても、彼の方がすぐれたプレーヤーだし、経験も豊富です。この次にぶつかるのを楽しみに待っています」

リウ・シャ 私は世界一になりたい

2年前、バンコクのアジア競技大会で、中国の女子シングルス・チャンピオン、リウ・シャは、インドネシアの第一人者ベラワティをストレートでやすやすと降し、バドミントン界のうるさ型たちを沈黙させた。この時まで、女子バドミントンの王座をどの国が占めるかは熱心な議論の的だった。しかし、リウ・シャの勝利と彼女のチームの圧勝は、この問題に疑問の余地のない結論を出した。

リウ・シャとバドミントンの恋は、9年前、彼女が15歳の時にはじまった。彼女をバドミントン愛好家から、チャンピオンになる可能性のあるプレーヤーに最初に仕立て上げたのは、コーチのシャン・ヨンシだった。ヨンシの指導で、彼女はわずか3年でナショナル・チームの一員の座を確保した。1978年には、中国の女子シングルスのタイトルを獲得するとともに、アジア競技大会では中間のリャン・チュー・シャ(梁秋霞)を女子決勝で破り金メダルをとった。

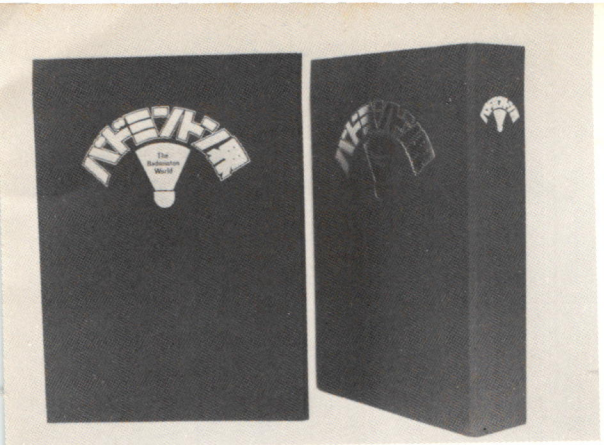
この小柄な上海体育学校教師はアジア最高のプレーヤーで満足していると思われるかもしれないが、リウ・シャには別の考えがある。「世界最高のプレーヤーになりたいの。これまでバドミントンのためにかなり犠牲を払ってきたわ。もう、私は世界最高の仲間に入る用意ができたと思うわ」リウ・シャは自信と厳しい決意をうかがわせながらこう言った。

このチャンピオンは、バドミントン以外にもさまざまな関心をいだいている。練習第一に過ごしてはいるが、時間を見つけては趣味を楽しんでいる——音楽だ。「香港の歌手の歌を聴くのが好きなの。ポピュラー・ミュージックの大変なファンよ」

コートに出ると、リウ・シャはまさに意志の化身だ。彼女の強味はスピードとコートさばきである。決定的なドロップ・ショットと相まって、アジアの女子バドミントン界では他の追随を許さないものになっている。スタミナ作りはもっぱらランニングに頼っている。コート上の「シャドウ・ストローキング」も彼女のトレーニング法の一つになっている。

リウ・シャは今の段階でも競技生活を終えたらコーチになろうと決めている。「遠征は好きよ。いろんな場所を見るだけでも教育だわ。私の遠征中に学んだことは何でも国にいる将来有望な若い人たちに伝えたいと思ってるの」

中国ではすでにそのバドミントンへの貢献を認められて、人民代表大会の常務委員会にスポーツ代表として選ばれている。



バドミントン界専用合本バインダーをどうぞ

穴あけ不要
ノリも使わず
かんたんに
長期間
BINDER B.W
保存できる

バドミントン界は、1969年の創刊以来10年を経過しました。その間には石油ショックによる紙不足や、インフレによるコストのアップなどいろいろ苦しいこともありました。

しかし、読者の皆様の力強いバックアップによって、さらに20年、30年を目ざして編集部一同がんばっていきます。

本誌は毎月発行ごとに保存しておけば、バドミントンの百科辞典となるものです。そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に、しかも長い年月にわたって保存しておくことのできる〝専用合本バインダー〟を用意してあります。

デザインは写真のとおりですが、表紙は黒色特殊レザーに、タイトルを銀パクで押したものです。とじ込み用クリップも本誌をキズつけないように丸味をつけて、扱いやすくしてあります。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。　〈まもなく定価改定になります。お早目にどうぞ!!〉

〔送料：1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上すべて700円です〕

バドミントン界編集部

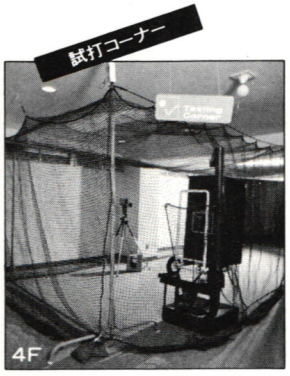
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

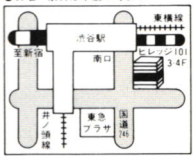
170坪

650㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





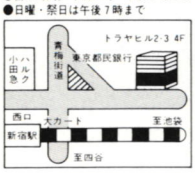
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ヒル3-4階）TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2.3.4階）TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





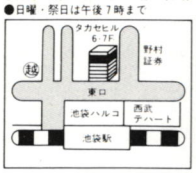




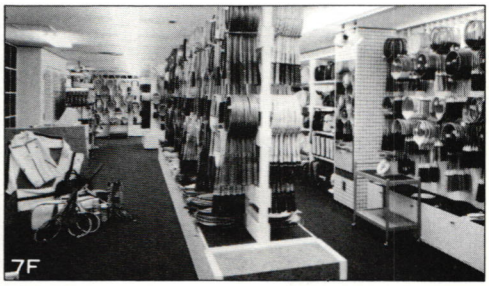
池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

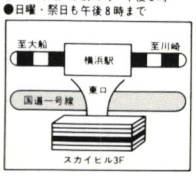
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。





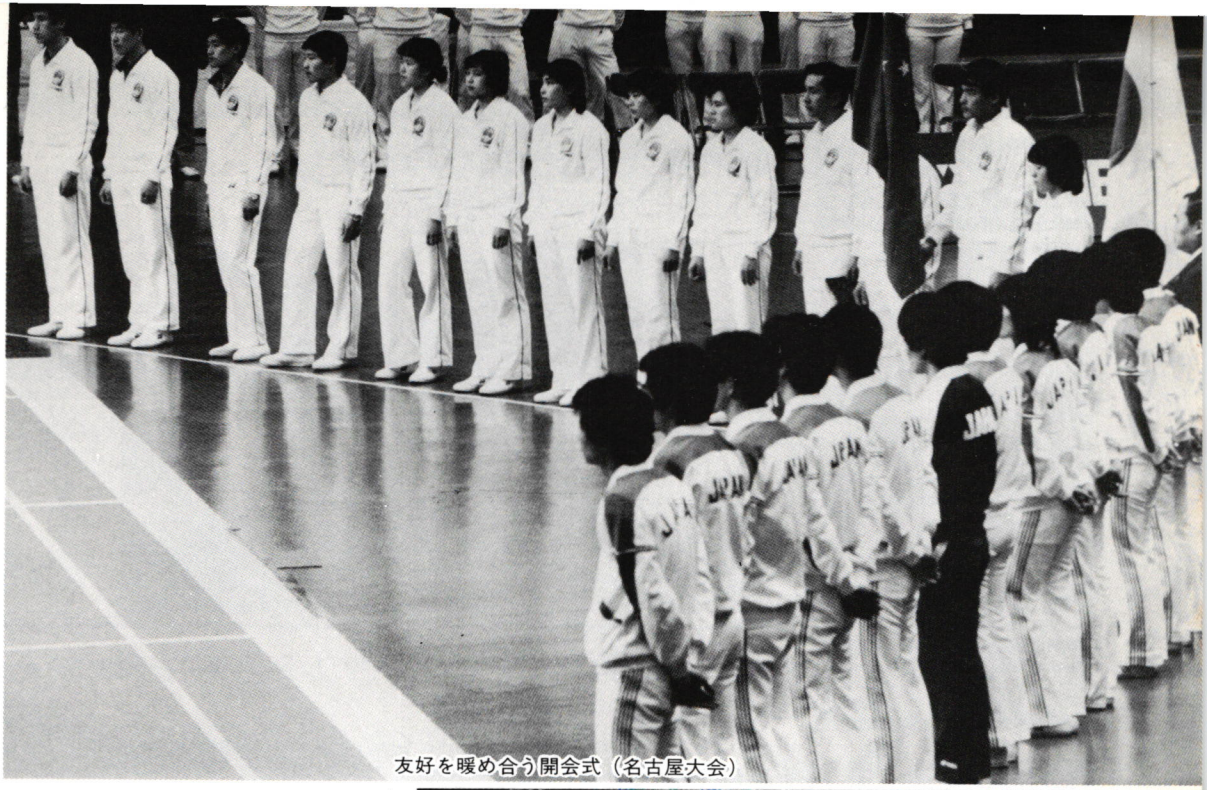


年中無休
横浜市西区高島町2-1　横浜駅東口（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス·バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

ウインザー ラケット ショップ。

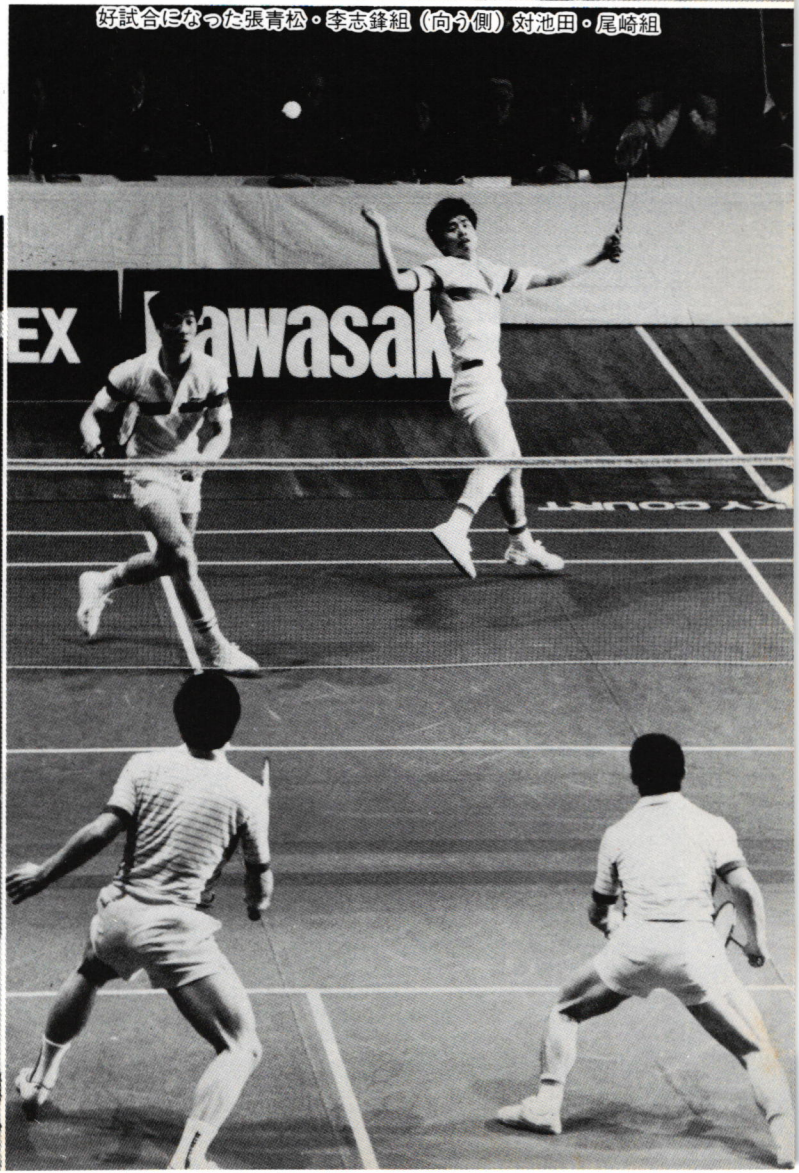


友好を暖め合う開会式（名古屋大会）

攻”大爆発



うなるスマッシュ、何連平（右）林詩銓



好試合になった張青松・李志鋒組（向う側）対池田・尾崎組



にこやかな晴れ姿、米沢（左）今泉選手



陳秀玉（右）謝楽平組はあらゆる角度からサービス

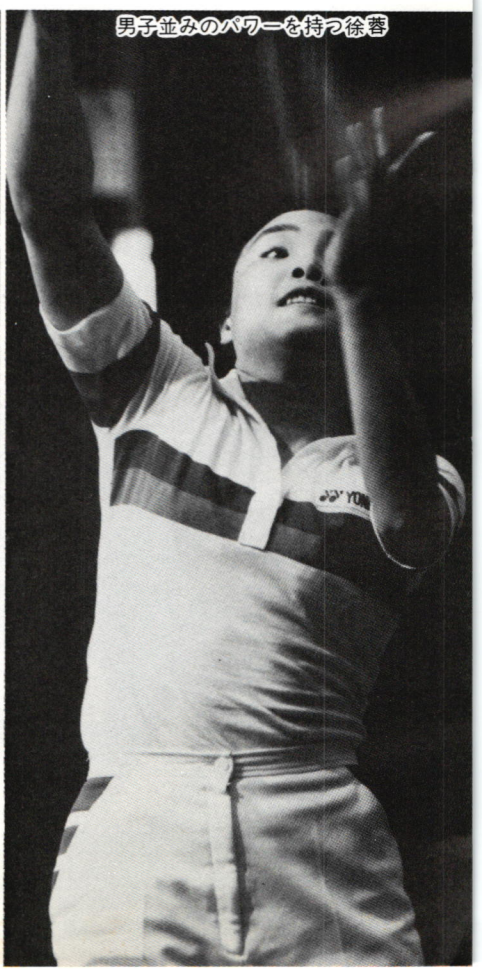
中国羽毛球隊 〝前陣速



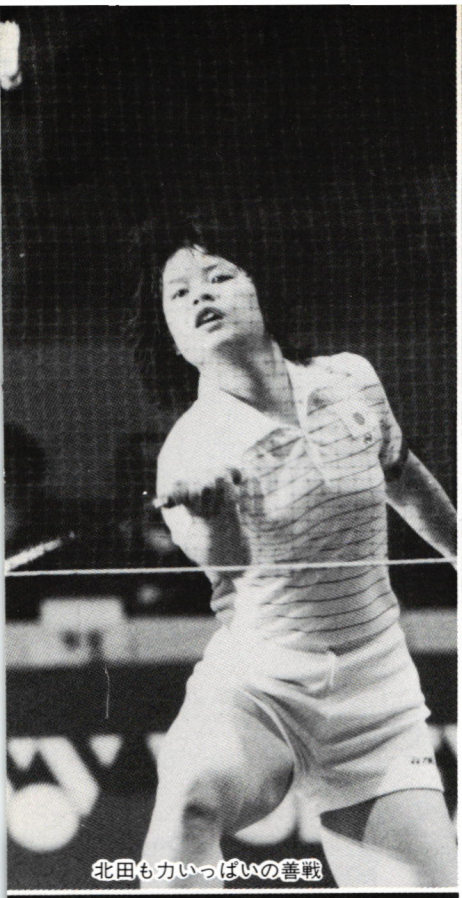
伸び伸びとしたプレーの宋幼萍



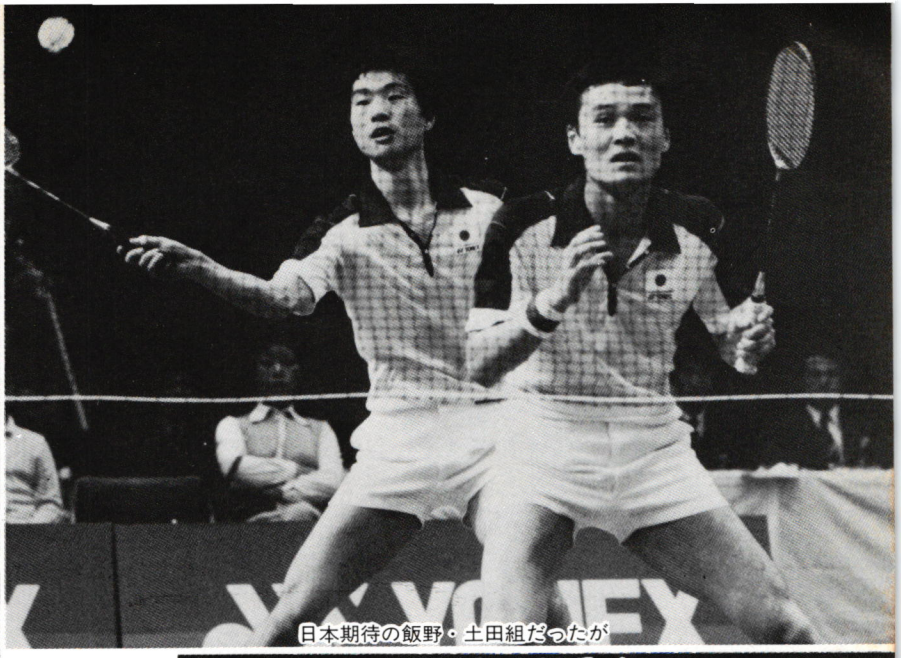
李芳は冷静そのもの



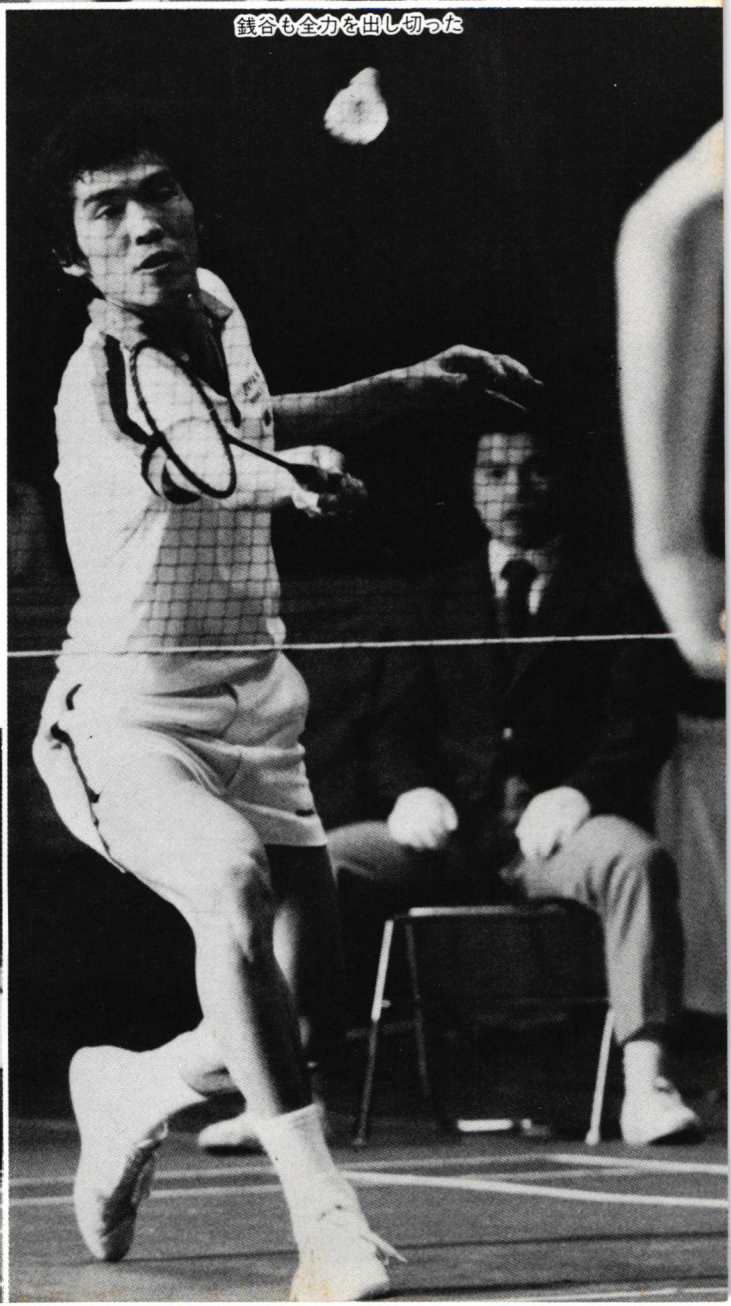
男子並みのパワーを持つ徐蓉



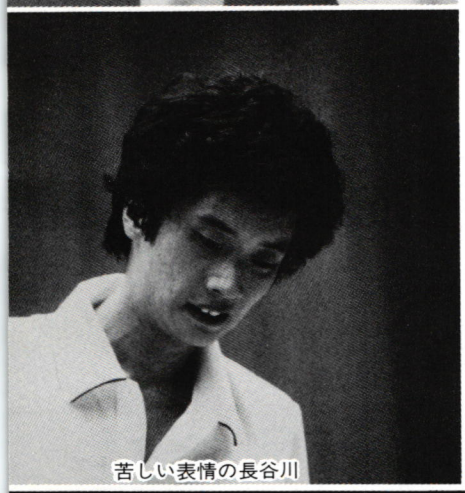
北田も力いっぱいの善戦



日本期待の飯野・土田組だったが



銭谷も全力を出し切った



苦しい表情の長谷川



守勢に回った米倉



DÉFI

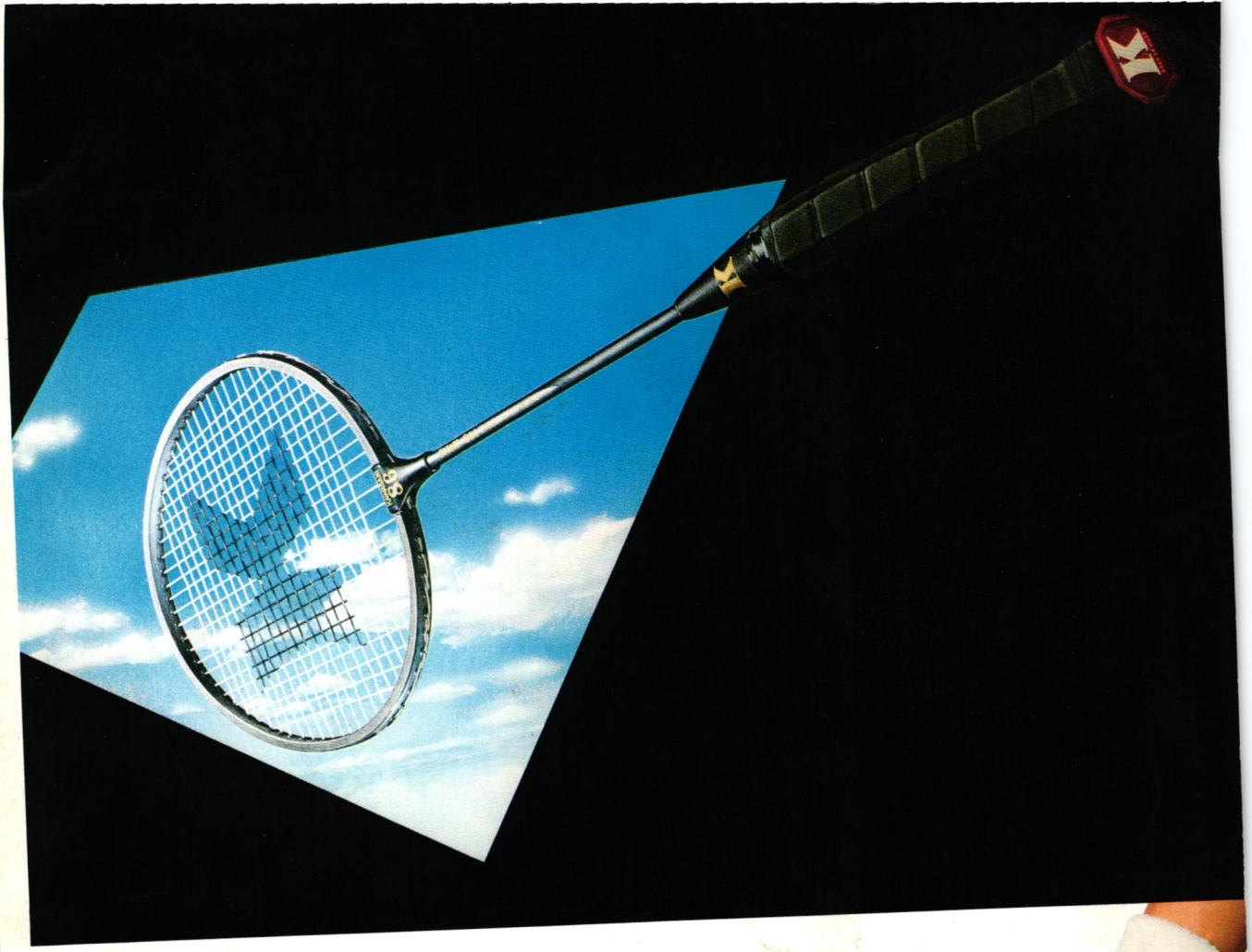
イタリアからColor Liberation最新版の到着。

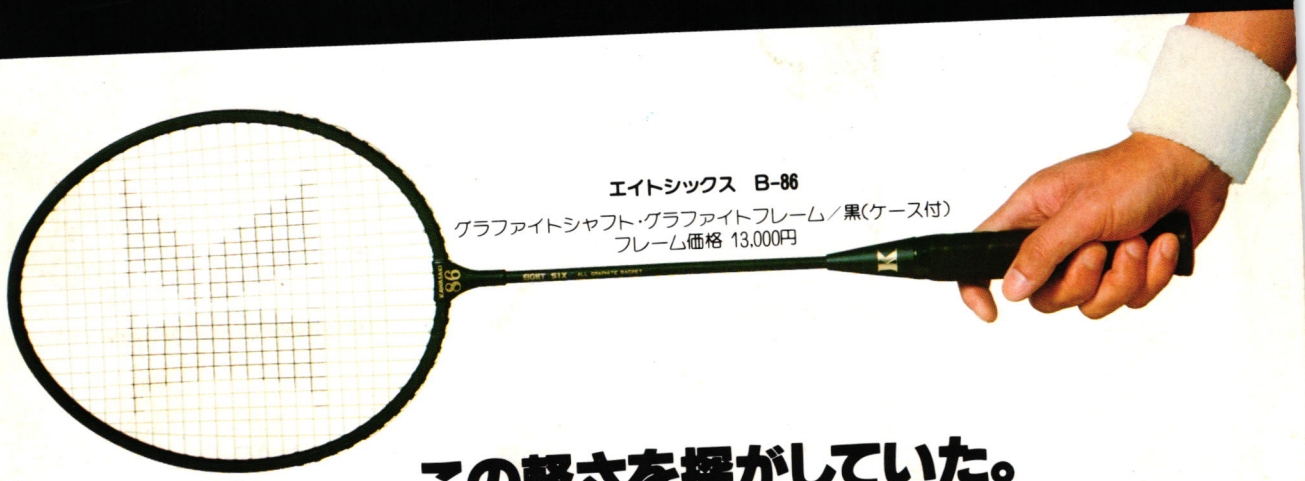
新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社





エイトシックス　B-86

グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)

フレーム価格 13,000円

この軽さを探がしていた。
ニューテクニックが生まれそうだ。

あるハイジャンパーは地球の引力に1㎝多く逆らうために2万回も跳んだ。いつの場合でも、スポーツマンの流す汗ほど貴重なものはない。ときにシャトルがおよそ200㎞/hourを起すバドミントンの世界でも、多くの汗が流された。そして手に、美しいB-86。“スピード時代”への完璧な対応を目指して……。

軽さで群を抜き、剛さでまた群を抜く。オールグラファイトB-86。新しい時代の王道へ、いま。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社